創刊500号に思うこと

(財) 日本ハンドボール協会副会長　川上 整司

日本協会編「ハンドボール」は1960年6月に創刊され、今月号で500号になります。半世紀に渡る中では、多少の紆余曲折はありましたが、多くの関係各位に支えられ、ハンドボールの理念と魅力を模索しながら、普及発展に多大な貢献をして参りました。その長きに渡る貴重な記録を保存したことは、日本協会の大きな財産であり、機関誌の役割の重さを、いま改めて確認した次第でございます。

この誌は定期的に、しかも正確に掲載し、その手作りの充実さは、発刊当初から、並み居る（財）日本体育協会の中でも高く評価されていたと聞き及んでおります。折りしも、1960年代は、経済成長にも加速され、日本スポーツ界も挙って世界を目標に強化体制を整え始めた時代でした。時を同じくしてハンドボール界も、他競技に遅ればせながら、次々と実業団チームが創設され、今日の日本リーグの基盤を創りあげたのです。

このように機関誌は、ハンドボールの発展と並行しながら、大いなる夢を載せて発刊し続けたのです。創刊号の式場会長の巻頭言は、発展をこよなく願い、理想を探求する文中で、特に印象的だった下りは「日本のハンド界とプレーヤーに望みたいのは、妙な劣等感を無くすべきだ。新興スポーツだと云うことと、あまり人口に膾炙（かいしゃ）されていないと云うことでプレーヤー自身がハンドをしていることに遠慮勝ちだったが、このような考えは、根底から取り去らねばいけない」と掲載されています。非常に意味深い文章の一部分ですが、50年を迎えた今日、人の認識は多種多様で、感想は必ずしも一致するものではないと考えます。それらを総体的にみますと強化面では、やや停滞してはいるが、過去4回のオリンピック出場の実績と競技人口等に於いては、大きな躍進を遂げて参りました。従ってハンドボールと真剣に取り組んできた多くの関係者は、そのことについては、遠い過去に自然淘汰されているものと思います。創刊より長期間、纏めて下さった担当者は、杉山（慶大OB）、藤本（東大OB）の両氏で、流石に執筆、編集に優れ、記事も多彩でした。何度読み返しても時の過ぎるのを忘れるほど懐かしく、多くの先達の熱い思いに引き込まれ、不思議な雰囲気を醸し出してくれます。その様に活字が人に与える影響は大きく、時には、尊敬してやまない恩師や先輩の叱咤激励より、ある文中で出会う言葉は、人の心を動かしモチベーションを高めてくれる要因にもなります。だが、読者に感動すら与え続けたこの誌に、転機が訪れます。それは両氏が、本務多忙のため退陣なされ、その後、全くの素人集団で編集にあたり、大変な苦労が続きました。

私もある時期、その渦中に居りましたが、発行が順次遅れる始末でした。そこで仕方なく、編集はプロの手に委ねることにして、何とかその難を逃れることが出来たのです。それから編集も次の世代の人々に移り、ハンドボールに精通し、博学多才な人達によって次々と繋ぎ続けられ、500号という偉業を成し遂げたのです。編集に携わった多くの委員と、陰で支えて下さった全国の関係各位に敬意を表しますと共に、今後さらなる内容充実を図り、読者にハンドボールの魅力を伝承し続けて欲しいものと願っております。

さて、今後の日本ハンドボール界に熱望することは、オリンピック出場であります。ソウル五輪後の日本ハンドボール界は、完全に韓国に牛耳られた感がします。それは実業団のあるチームが導入し、勝利を優先することと普及発展、競技力向上を兼ねての趣旨であったと推測しますが、強化、特に対韓国戦に於いては、負の面もあった様に思われます。今後は、対韓国戦法のみではなく、焦点は、世界の強豪チームに対策を変更していかなければなりません。他のアジアの国々の強化も著しく高まり、それらを眼中に捕らえながら、万全な強化体制を構築し、1日も早く実行すべきと考えます。いま再び、2016年のオリンピックを東京で開催すべく招致活動の真っ最中ですが、実現することになれば願ってもない機会が到来します。この好機を掴むために総力を結集し、前哨戦ともなるロンドン五輪には、何が何でも出場し、そして東京でメダルを、あるいは、それに手の届く順位を確実にすることが必要になります。それが実現すれば、漸く日本スポーツ界の人気種目の仲間入りを果たせるのです。そのためには、ハンドボール関係者が、一致団結して、立ち向かうための施策を積極的に進められるよう、（財）日本協会は力強いメッセージを全国に発信する必要があると考えます。

第33回 日本ハンドボールリーグ プレーオフ

男子：大同特殊鋼（4年連続13回目）
女子：オ ム ロ ン（4年連続14回目）が優勝

最終順位

[男子]		[女子]	
1位	大同特殊鋼	1位	オムロン
2位	大崎電気	2位	北國銀行
3位	湧永製薬	3位	ソニー
4位	トヨタ車体		セミコンダクタ九州
5位	トヨタ紡織九州	4位	広島メイプルレッズ
6位	Ｈｏｎｄａ	5位	三重バイオレット
7位	北陸電力		アイリス
8位	琉球コラソン	6位	ＨＣ名古屋
9位	豊田合成		
10位	トヨタ自動車		

第33回日本ハンドボールリーグを終えて

日本ハンドボールリーグ機構ＧＭ　家永 昌樹

3月15日に東京駒沢体育館にて行われましたプレーオフ決勝で、女子はオムロンが、男子は大同特殊鋼がそれぞれ4連覇を果たし第33回日本ハンドボールリーグは終了いたしました。

今シーズン開催に際しまして、試合を準備いただきました開催地協会、多くのご支援をいただきましたスポンサーの皆様、会場に足を運んでいただいた多くのファンの皆様、また、日本リーグを支えていただきました多くの関係者の方々に深く感謝いたします。今シーズンは、昨シーズンよりも多くの方々に会場に足を運んでいただき、1試合平均で30％ＵＰの観客数でした。この数字の伸びは、全チームのホームゲームでも伸びております。特に目立つのが第3地域開催の試合の集客数です。第3地域開催29試合中17試合が1,000人を超える集客数でした。昨年のオリンピック再予選以降ハンドボール人気が急上昇し、世間の方からも注目を浴びるようになり、今までとは観客の方々が変わってきております。2年前では各会場半数以上が10代（中高生）でしたが、今シーズンは20代・30代の方々が会場の半数を占めるようになってきています。

レギュラーシーズン男子は安定した力を発揮した大同特殊鋼が1位通過をし、2位、3位、4位が最終週まで決まらない混戦模様でした。2位大崎電気と3位湧永製薬は大崎の1勝1分け、4位のトヨタ車体は大崎と湧永にそれぞれ1勝1敗と五分の星、5位のトヨタ紡織九州は1位の大同に1勝1敗トヨタ車体とは2試合とも引き分けで、上位5チームはどこがプレーオフに進出してもおかしくない状態でした。しかし、下位の5チームと上位5チームとの力の差は開いているように思います。下位チームが上位チームと激戦をすることによって、日本リーグの底上げにつながり、選手個々の強化になっていくと思います。下位の中では、今シーズン初参戦の琉球コラソンが4勝を上げ8位と健闘したのは明るい話題でした。

女子はオムロンが一位通過を決めるも、ソニーに1敗、北國銀行に1分けと抜け出ている状態ではありませんでした。4位の広島メイプルレッズはソニーから1勝を上げ、5位の三重バイオレットは北國銀行から1勝を、メイプルには1勝1敗1分けの五分の戦いをしています。ＨＣ名古屋が少し取り残されているような状態ですが、男子同様リーグ戦で全ての試合が厳しい接戦になれば強化につながっていくと思います。

国内リーグでの試合が厳しくハードな試合が多くなっていくことで、肉体的・精神的に強くなっていくはずでナショナル強化につながっていくと思います。また、観客の皆様方にもどの試合も満足をしていただけるようになり、益々の集客

増につながると信じています。

プレーオフは、2日間、多くの方に駒沢体育館にお越しいただきました。決勝日は3,000人を超える方々にご来場いただき、盛況のうちに終了いたしました。トーナメント方式の負ければ終わりの厳しい試合では、最高殊勲選手賞を獲得した東濱選手、高木選手の活躍による安定した試合運びをした、オムロン、大同特殊鋼が優勝を飾りました。プレーオフ開催に際しましては、全日本空輸株式会社様はじめ多くの協賛企業様、東京都ハンドボール協会、関東学生ハンドボール連盟、会場にお越しくださいました来賓の方々、ファンの方々に深く感謝いたします。また、素晴らしい試合を展開してくれました各チーム選手に、感謝したいと思います。

第34回大会のプレーオフは会場を東京体育館に移して行います。今年度以上の準備をし、皆様方をお迎えしたいと思っております。また、チームも大きいステージに負けない試合をしてくれることと信じています。その為にも既に新たなシーズンに向けてトレーニングに励んでいます。

ファンの皆様も大きな東京体育館でのプレーオフを楽しみにして下さい。

第34回大会は、非常に厳しい社会情勢の中での出発になります。選手たちはこれまで以上に、支えていただいてる企業、協賛スポンサー、地域の方々に感謝をし、愛されるチームになってください。今年の集客数を上回れるように各チーム、開催地が一体となって取り組んでいかねばならないと思います。前にも触れましたが、会場にお越しいただいてるファンの方々が、今までの中高のクラブ単位での観戦から大きく変わってきています。我々運営側もこれまで以上に努力をし、常に新しいものに挑戦し、満足いただける運営を目指していきます。

ファンの皆様には、第34回大会も引き続きご声援をお願いするとともに、是非会場に足を運んで下さい。日本ハンドボールリーグを盛り上げて下さい。宜しくお願いします。

優勝チームの声

●男子：大同特殊鋼

大同特殊鋼ハンドボール部監督　清水 博之

プレーオフに優勝して

はじめに、日本リーグを開催するにあたりご尽力いただきました関係者の方々、会場まで足を運んで応援、ご声援くださった方々、本当にありがとうございました。お陰様で第33回日本リーグプレーオフで無事に四連覇を達成することができました。試合で結果を残した選手は勿論ですが、これまで支えてくださった多くの方々に感謝しております。

近年、プレーオフへ出場するチームの力は僅差となり、レギュラーシーズンの結果どおりにはいかない、厳しい戦いになることを予想しておりました。準決勝、決勝ともに、持ち味でもあるスタートダッシュに成功したものの、後半に追い上げられ苦しい試合展開となりましたが、選手達は最後の最後までよく頑張ったと感じております。

これからも、ハンドボールの醍醐味である「走る　投げる　飛ぶ」に更に磨きをかけて、より高い技術を身につけ、会場に来られる方々に「夢と感動」を与えられるよう、ハンドボールの面白さが伝えられるよう、選手一同頑張ってまいります。

まずは4月24日から中国で開催される「東アジアクラブ選手権」に全力で挑み、更に世界を見据えて進んでいきます。今度とも大同フェニックスをよろしくお願い申し上げます。

最高殊勲選手賞　大同特殊鋼　高木　尚

日本ハンドボールリーグ　プレーオフＶ４達成

3月15日第33回日本ハンドボールリーグプレーオフで4年連続13回目の優勝を果たす事が出来ました。まず、優勝できた事は、私自身そしてチームを支えて下さる多くの関係者の方のご支援があってこそ成し得た成果です。ありが

とうございました。今回プレーオフでMVPを初めて獲得しましたが、日頃の練習で指導してもらっている監督、コーチのお陰です。細かく指導してもらっているプレーを純粋に出せた結果と思います。さらに08年度からキャプテンを任され、チームとして優勝という結果を残せた事もとても嬉しく思っています。体力的以上に精神的に追い込まれたときに支え合えたチームメイト全員を誇りに思います。

しかしながら私達はまだまだ強くありません。この結果に満足せず、先に控える東アジアクラブ選手権、昨年度獲得できなかったタイトル奪取、更にはロンドンオリンピックを勝ち取ることを信じ、チームワークを第一に組織、個人の更なるレベルアップを図っていきます。

今回の優勝にあたり、チーム関係者、大会運営関係者そして応援して下さった多くのファン、サポーターの皆様、本当にありがとうございました。これからも「感動」を与えられるチーム、選手を目指し頑張ります。

●女子：オムロン

オムロンヘッドコーチ　黄　慶泳

Play Off 優勝について

第33回日本ハンドボールリーグプレーオフで、オムロンが4年連続14回目の優勝を飾ることが出来ました。この様な結果で終わりとても嬉しく、素直に喜んでおります。オムロンのハンドボールに対するご理解とご支援に感謝の気持ちで一杯です。会場をピンク色に染めて選手達に熱いご声援と皆様の支えがあってこその優勝だと思います。改めて心からお礼を申し上げます。

今シーズンは、スタートから主力選手の怪我からの復帰遅れと、新しくスターティングメンバーに入った選手とのコンビネーションに安定感を欠く戦いが続いていました。しかし、12月末に行われた全日本総合の決勝で再延長まで行く戦いで、勝利を得て優勝出来たことがチームに自信を与えてくれました。その後は大きな崩れはなくチーム全体に安定感があり、後半戦の戦いを若手も起用する事でチームの底上げにも繋げられる展開となり、1位通過で決勝を迎えることになりました。

プレーオフでは、決勝戦の舞台に立てる喜びをコートの中で出し切るプレーヤーとしての義務、そして前半の立ち上がりで一気に勝負を賭けることをチーム全員が意思統一して試合に臨みました。結果としては、北國銀行チームの執念も素晴らしく、一試合通しては波がありましたが、前後半の立ち上がりでの集中力とゲームを支配出来た事が、勝利に繋がる要因の一つだったと思います。

来シーズンは今年以上に厳しい戦いが予想されます。シーズンを通して勝ちに対する執念と基本を大切にし、皆様に愛されるチームを目指して取り組んでまいります。

今後も応援宜しくお願いします。

最高殊勲選手賞　オムロン　東濱裕子

プレーオフを終えて

この度、第33回日本ハンドボールリーグ、プレーオフで4年連続14回目の優勝、そして私自身初のＭＶＰを受賞できましたことを心から嬉しく思います。今シーズンは実業団選手権大会、そして国体と２つのタイトルを落とし、全日本総合選手権大会でも第２延長にもつれこむ苦しい状況での優勝となり、簡単に勝たせてはもらえないことを改めて痛感しました。

プレーオフ決勝戦では、今までにないプレッシャーと緊張感から立ち上がりでミスを連発してしまい、1点差まで詰められ13-12で前半を終えましたが、後半は多くの声援に後押しされ思い切りプレーをすることが出来、チームの持ち味である固い守りから得点に結びつけ最後は4点差での勝利となりました。

今回ＭＶＰを受賞できましたのはスタッフやチームメイト、それから周りの方々の助けがあってこそだと感じています。日ごろから支えてくださっている方々へ感謝の気持ちをもちながら、ハンドボールの魅力を伝えられるようにこれからも努力してまいります。今後ともご支援、ご声援のほどよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

■戦況報告

【男子】

▼準決勝

大同特殊鋼　26（15－7、11－14）21　トヨタ車体

大同の6番富田選手の速攻で先制。両チームGKの好セーブにより、試合開始10分過ぎまでは3対2とロースコア。しかし、大同は固い3－2－1ディフェンスで、15分すぎに7番地引選手、4番末松選手の速攻で次々と加点し、20分すぎには10対4と大同リード。車体も7番野村選手のミドルや18番崎前選手のサイドシュートで追い上げを図るが、大同はGK12番高木選手の好セーブや9番武田選手のロングシュートで15対7とリードしたまま前半を終了。

後半に入り、大同は3連続得点で4分すぎ18対7と大きくリードして一方的なゲームと思われたが、5分すぎから車体の反撃が始まる。5番高智選手の3連続得点や、大同20番白選手の退場もあり、車体は7連続得点を上げ、13分すぎ18対14と追い上げる。大同はすかさずタイムアウト。その後は両チーム一進一退の攻防がつづく。車体も20番門山選手のカットインや18番崎前選手の速攻で追撃をするが、大同はGK高木選手を中心に固いディフェンスから速攻で追い上げを許さず、26対21と大同が勝利した。

大崎電気　33（14－16、19－14）30　湧永製薬

湧永製薬のスローオフで試合開始。立ち上がり30秒で湧永4番坂本選手のサイドシュートが決まり先制するが、大崎電気もすぐに18番内田選手のポストシュートで追いつく。その後一進一退の攻防が続き、大崎は21番宮﨑選手を中心に得点、湧永は速いパスワークからサイドとポストでの得点と、両チームとも見応えのある攻防を繰り広げ接戦となるが、前半16対14と湧永の2点リードで折り返した。

後半に入っても、最初の得点はまたも湧永4番坂本選手。しかし大崎がここから3連取、同点に持ち込む。その後は一進一退の状況が続くが、抜け出したのは大崎電気。後半13分過ぎに大崎電気が3点リードする。大崎リードが5点になったところで湧永製薬がタイムアウト、リズムを変えようとする。湧永は17番古家選手、11番東選手のミドル、ステップシュートで3点差、更に新の速攻で2点差に。ここで大崎電気が残り90秒でタイムアウトを取り、直後の攻撃で大崎4番前田選手のミドルシュートが決まり3点差となり、33対30で大崎電気が決勝戦へのキップを手にした。

▼決勝

大同特殊鋼　29（17－9、12－18）27　大崎電気

先ず先制したのは大崎電気。No.10太田選手の速攻からのシュートが決まり、ゲームが動き出す。それに対して、大同もNo.20白のミドルシュートで応戦して行く。その後両チームとも速い展開での攻防を繰り広げていくが、徐々にペースを掴んできた大同がNo.12ゴールキーパー高木のファインセーブや連続得点などで点差を広げて、前半を17対9と大同の8点リードで折り返す。

後半に入って、大崎はNo.21宮﨑のミドル、大同はNo.13李のミドルと激しい打ち合いになる。9分過ぎからゲームの波は大崎に。6連続得点で14分には2点差まで追い上げる。大同はたまらずタイムアウトをとり流れを断ち切る。その後、大同はNo.15山城、大崎はNo.14岩永の速攻など見応えのあるゲーム展開が続くが、大同が常にリードを保ち、29対27で大同特殊鋼が勝利し4連覇を達成した。

【女子】

▼準決勝

北國銀行　25（10－5、15－12）17　ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州

ソニーセミコンダクタ九州のスローオフで前半開始。2分過ぎにソニーが23番金城選手のボールカットからの速攻を決め、先制点を取る。その後、両チームのゴールキーパーのファインセーブが続き、8分過ぎまで1対0のスコアーが続いたが、北國銀行4番上町選手の速攻からのミドルシュートが決まり同点に。徐々にペースを掴んできた北國銀行が、速攻からの得点や13番仲宗根選手のミドルシュートなどでリードを広げ、10対5と北國銀行の5点リードで前半終了。

後半、北國銀行は13番仲宗根選手の巧みなステップシュートや4番上町選手のミドルシュートなどでリードを広げて行く。後半15分過ぎに北國銀行に立て続けに退場者が出るが、ソニーセミコンダクタ九州はなかなか点差をつめる事ができず、25対17で北國銀行が決勝戦へ進んだ。

▼決勝

オムロン　32（13－12、19－16）28　北國銀行

先制はオムロンのNo.9坂元選手のポストシュート。その後も、オムロンは多彩なセットプレーNo.11洪選手のスカイプレーやNo.7藤井選手のミドルシュートなどで、前半23分で13対6と大きくリードする。しかし、北國もNo.4上町選手を中心に、No.5宮前選手のサイドシュートやNo.9横嶋選手の速攻など6連続得点を上げ、13対12のオムロン1点リードで前半を折り返す。

後半に入り、北國はNo.4上町選手のミドルシュートで同点。しかし、オムロンはNo.7藤井選手のシュートやNo.17東濱選手のスカイプレーなどで6連続得点、後半10分すぎに21対14とオムロンがリードを広げる。北國はすかさずタイムアウト。その後両チーム一進一退の攻防が続き、オムロンがリードを保つ。北國もNo.18若松選手サイドシュートやNo.13仲宗根選手のカットインシュートなどで追い上げるも及ばず、オムロンがレギュラーシーズン1位の貫禄を見せつけ、4年連続14回目の優勝を果たした。

第33回日本ハンドボールリーグ成績表　レギュラーシーズン日程終了

【男子】

順	位	大同	大崎	湧永	車体	紡織	Honda	北電	琉球	合成	トヨ自	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	大同特殊鋼		30 33 ○ ○ 21 26	27 27 ○ ○ 23 23	32 34 ○ ○ 20 30	27 38 ● ○ 33 18	38 27 ○ ○ 23 23	41 29 ○ ○ 25 15	37 36 ○ ○ 19 16	32 40 ○ ○ 23 20	41 39 ○ ○ 15 23	18	17	0	1	608	396	212	34
2.	大崎電気	26 21 ● ● 33 30		27 31 △ ○ 27 22	31 30 ○ ● 26 32	33 36 ○ ○ 28 31	35 27 ○ ○ 33 23	36 33 ○ ○ 22 21	49 38 ○ ○ 22 26	33 39 ○ ○ .21 31	43 45 ○ ○ 23 26	18	14	1	3	613	477	136	29
3.	湧永製薬	23 23 ● ● 27 27	22 27 ● △ 31 27		29 25 ○ ● 28 38	32 28 ○ ○ 30 26	27 28 ○ ○ 19 21	32 33 ○ ○ 18 16	35 34 ○ ○ 25 23	36 39 ○ ○ 26 20	41 27 ○ ○ 19 17	18	13	1	4	541	438	103	27
4.	トヨタ車体	30 20 ● ● 34 32	32 26 ○ ● 30 31	38 28 ○ ● 25 29		25 23 △ △ 25 23	33 36 ○ ○ 29 27	30 32 ○ ○ 19 23	32 36 ○ ○ 21 25	36 43 ○ ○ 19 28	37 42 ○ ○ 21 19	18	12	2	4	579	460	119	26
5.	トヨタ紡織九州	18 33 ● ○ 38 27	31 28 ● ● 36 33	26 30 ● ● 28 32	23 25 △ △ 23 25		30 28 ○ ○ 25 25	38 28 ○ ○ 32 27	35 38 ○ ○ 19 26	38 44 ○ ○ 19 33	36 37 ○ ○ 33 22	18	11	2	5	566	503	63	24
6.	Honda	23 23 ● ● 27 38	23 33 ● ● 27 35	21 19 ● ● 28 27	27 29 ● ● 36 33	25 25 ● ● 28 30		32 29 ○ ○ 31 27	36 39 ○ ○ 26 31	28 27 ○ ● 18 28	29 30 ○ ○ 23 24	18	7	0	11	498	517	-19	14
7.	北陸電力	15 25 ● ● 29 41	21 22 ● ● 33 36	16 18 ● ● 33 32	23 19 ● ● 32 30	27 32 ● ● 28 38	27 31 ● ● 29 32		29 34 ● ○ 30 32	29 24 ○ ○ 27 23	30 23 ○ ○ 22 22	18	5	0	13	445	549	-104	10
8.	琉球コラソン	16 19 ● ● 36 37	26 22 ● ● 38 49	23 25 ● ● 34 35	25 21 ● ● 36 32	26 19 ● ● 38 35	31 26 ● ● 39 36	32 30 ● ○ 34 29		36 35 ○ ○ 29 34	32 42 ● ○ 35 29	18	4	0	14	486	635	-149	8
9.	豊田合成	20 23 ● ● 40 32	31 21 ● ● 39 33	20 26 ● ● 39 36	28 19 ● ● 43 36	33 19 ● ● 44 38	28 18 ○ ● 27 28	23 27 ● ● 24 29	34 29 ● ● 35 36		31 26 ○ ○ 19 24	18	3	0	15	456	602	-146	6
10.	トヨタ自動車	23 15 ● ● 39 41	26 23 ● ● 45 43	17 19 ● ● 27 41	19 21 ● ● 42 37	22 33 ● ● 37 36	24 23 ● ● 30 29	22 22 ● ● 23 30	29 35 ● ○ 42 32	24 19 ● ● 26 31		18	1	0	17	416	631	-215	2

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表し、左側がホーム，右側がアウェイの結果を表す。

【女子】

順	位	オムロン	ソニー	北國銀行	メイプル	三重	HC名古屋	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	オムロン		30 29 30 ○ ● ○ 27 31 22	22 25 26 △ ○ ○ 22 23 22	31 34 30 ○ ○ ○ 22 21 24	33 29 30 ○ ○ ○ 18 22 20	36 36 34 ○ ○ ○ 12 14 10	15	13	1	1	455	310	145	27
2.	ソニーセミコンダクタ九州	27 31 22 ● ○ ● 30 29 30		21 25 29 ● ○ ○ 23 22 27	34 29 33 ○ ● ○ 21 31 29	26 33 27 ○ ○ ○ 21 22 22	34 36 41 ○ ○ ○ 17 17 20	15	11	0	4	448	361	87	22
3.	北國銀行	22 23 22 △ ● ● 22 25 26	23 22 27 ○ ● ● 21 25 29		29 28 30 ○ ○ ○ 21 14 26	28 30 24 ○ ○ ● 18 21 30	38 33 40 ○ ○ ○ 14 13 19	15	9	1	5	419	324	95	19
4.	広島メイプルレッズ	22 21 24 ● ● ● 31 34 30	21 31 29 ● ○ ● 34 29 33	21 14 26 ● ● ● 29 28 30		22 16 24 ○ ● △ 16 19 24	37 26 28 ○ ○ ○ 22 19 12	15	5	1	9	362	390	-28	11
5.	三重バイオレットアイリス	18 22 20 ● ● ● 33 29 30	21 22 22 ● ● ● 26 33 27	18 21 30 ● ● ○ 28 30 24	16 19 24 ● ○ △ 22 16 24		26 26 26 ○ ○ ○ 19 21 23	15	5	1	9	331	385	-54	11
6.	HC名古屋	12 14 10 ● ● ● 36 36 34	17 17 20 ● ● ● 34 36 41	14 13 19 ● ● ● 38 33 40	22 19 12 ● ● ● 37 26 28	19 21 23 ● ● ● 26 26 26		15	0	0	15	252	497	-245	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

《表彰選手》

<男　子>

■最優秀監督賞……清水　博之（大同特殊鋼）２回目
■最高殊勲選手賞……高木　尚（大同特殊鋼）初
■殊勲選手賞……宮崎　大輔（大崎電気）２回目
■得点王……末松　誠（大同特殊鋼）139点　２回目
■フィールド得点賞……宮崎　大輔（大崎電気）123点　２回目
■シュート率賞……末松　誠（大同特殊鋼）0.617　初
■７mスロー得点賞……村山　裕次（琉球コラソン）37点　初
■７mスロー阻止率賞……東　佑三（大崎電気）0.435（10/23）　初
■最優秀選手賞……末松　誠（大同特殊鋼）２回目
■最優秀新人賞……村山　裕次（琉球コラソン）
■ベストセブン……
　ＧＫ　高木　尚（大同特殊鋼）２回目
　ＣＰ　崎前　博章（トヨタ車体）初
　〃　末松　誠（大同特殊鋼）２回目
　〃　富田　恭介（大同特殊鋼）初
　〃　白　元喆（大同特殊鋼）６回目
　〃　中畠　嘉之（トヨタ紡織九州）初
　〃　宮崎　大輔（大崎電気）５回目
■ベストディフェンダー賞……武田　享（大同特殊鋼）初
■フェアプレー賞……トヨタ自動車　113点／18試合（6.3点／試合）

<女　子>

■最優秀監督賞……黄　慶泳（オムロン）４回目
■最高殊勲選手賞……東濱　裕子（オムロン）初
■殊勲選手賞……上町　史織（北國銀行）初
■得点王……上町　史織（北國銀行）134点初
■フィールド得点賞……郭　惠靜（ソニーセミコンダクタ九州）109点６回目
■シュート率賞……横嶋　かおる（北國銀行）0.807 ２回目
■７mスロー得点賞……上町　史織（北國銀行）49点初
■７mスロー阻止率賞……田代　ひろみ（北國銀行）0.455（10/22）２回目
■最優秀選手賞……上町　史織（北國銀行）初
■最優秀新人賞……樋口　真央（ソニーセミコンダクタ九州）
■ベストセブン……
　ＧＫ　田代　ひろみ（北國銀行）初
　ＣＰ　洪　廷旻（オムロン）２回目
　〃　佐久川ひとみ（オムロン）８回目
　〃　横嶋　かおる（北國銀行）２回目
　〃　上町　史織（北國銀行）２回目
　〃　郭　惠靜（ソニーセミコンダクタ九州）５回目
　〃　城内　真紀（オムロン）初
■ベストディフェンダー賞……坂元　智子（オムロン）３回目
■フェアプレー賞……ＨＣ名古屋　85点／15試合（5.7点／試合）

プレーオフを観て 私をハンドに連れてって

会場内の様子

会場に入ると、レギュラーシーズンの表彰者一覧を示す看板が目についた。また、プレーオフ進出チームを紹介する看板も置かれていた。それに載っている選手の写真（等身大よりやや大きい）の横で記念撮影を行うファンの姿があった。東京オリンピック招致活動も行われていた。出店のハンドボール関連商品の品ぞろえは年々充実度を増してきているように思われる。

軽快なBGMが流れるなか、コート上では選手がアップを行っている。体育館天井の何箇所かにはスポンサーの航空会社のロゴマークと「HANDBALL PLAYOFF」の文字が映し出され、回転していた。日本リーグのプレーオフといっても「ただ試合をやるだけ」という時代もあったと聞くが、近年では試合以外にも様々な楽しみが用意されているようである。試合開始まで退屈しなさそうだ。

試合前

試合開始の30分ほど前からセレモニーが始まった。チーム紹介VTRが流れたり、場内が暗転したり、MCが登場したりと（女子の試合には女性MCが起用された）、場を盛り上げる。選手は一列になってしずしずと入場してきた。入場・紹介が済むと選手がサインボールをスタンドへ投げ込む。会場は大騒ぎである。国家斉唱の後、始球式が始まった。ここで北京五輪ソフトボール金メダリストの上野由岐子選手が登場、場内は騒然となった。勝田選手との7mt対決である。ウインドミルから放たれたシュートは引っ張り下に決まった。この日最も盛り上がった瞬間だったと言っても過言ではなかろう。

女子決勝

さてシーズンを締めくくる試合が始まった。「○○選手ナイスシュート」といった具合に、プレーに対しMCが適宜相の手を入れる。オーロラビジョンには機に応じてリプレイ、得点者などが大写しになる。

ハーフタイムのオーロラビジョンにはレギュラーシーズンの各タイトル獲得者が表示され、次に東京オリンピック招致CMが映し出されていた。ここで来賓の紹介が行われた。この日は上野投手、京胡奏者の呉汝俊氏などが来場していた。

女子決勝が終わり、男子がコート上でアップを行っているころ、体育館内通路に人だかりができていた。この日誕生日を迎えた北國銀行の田代選手を応援団が祝福していた。

男子決勝

試合前の演出は基本的に女子のそれと変わらない。ただ、オーロラビジョンに映し出されたVTRが、女子のものより多少豪勢だったように感じられた。男子の始球式では柔道・アテネ、北京五輪金メダリストの内柴正人選手が登場、両チームを激励するスピーチと7mTが行われた。

ところで、日本リーグ男子の試合では、スローオフ直後に対面の選手とタッチするなどして挨拶をする慣習が存在する。なかなか清々しい場面だが、賛否両論あるのだろうか、女子にはそういった慣習はないようだ。

ファインセーブをした高木選手が大同ファンからの大声援にガッツポーズで応じるなど、大同特殊鋼の選手とスタンドとの一体感が伝わる試合だった。

試合後

試合が終わり、勝利チームがひとしきり喜び終えたころに表彰式が始まった。コート上に決勝進出チームが整列する。やはりMVP発表の瞬間は盛り上がるものである。男子は試合直後のため疲労が色濃く、特に試合に敗れた大崎電気の立ち姿は「整列」とは言い難かった。

大会を通じて

一枚の入場券でその日の試合を全て観ることができるというのはありがたい。

だが、ハンドボールの試合を観に行くと言っても、楽しみはただ試合を観ることだけにとどまらない。試合会場へ足を運べば、日頃では入手しにくいハンドボール関連商品が売られている。生身の選手と話すことだってそう難しくはない。試合を盛り上げるための様々な演出があり、思わぬ大物ゲストが登場したりもする。要するに退屈しないのである。展開によっては肝心の試合が最も退屈だったりするから恐ろしい。運営サイドの努力に対して、選手含めチーム関係者は、高いレベルで拮抗した試合でもって応じなければならないだろう。その意味でも、大同・オムロンの独走状態に一石を投じるチームの出現が待たれる。

何はともあれ、プレーオフには貴重な休日と入場料を捧げるだけの価値があるように思われる。まだ生でプレーオフを見たことがないハンドボール好きには、一度プレーオフを観に行くことをおすすめしたい。ハンドボール観が変わるような体験ができるかもしれないからだ。

機関誌編集委員会　小林弘樹

平成20年度 第32回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

男子：北陸（福井）、女子：名古屋経大市邨（愛知）が優勝を飾る

全国高等学校ハンドボール選抜大会徳島大会回顧（H 18～H 20）

徳島県ハンドボール協会理事長　佐藤　公美

平成18年度より徳島県に誘致開催いたしました選抜大会も、今年度をもちまして無事3年間を終えることができました。開催地に立候補しようと県協会で議論し、賛否両論に分かれながらも、何とか反対の役員を説得し、徳島県で頑張ろうと奮い立ったことが懐かしく思い出されます。平成10年の四国インターハイで初めて全国大会を開催した時は行政のバックアップもあり、徳島県協会のような小さな組織でも大会が運営できたのです。今回はほとんど自前の大会運営になることは開催前から解っていたことなのですが、いざ平成18年度の選抜大会を開催した時には、ノウハウが稚拙であったため参加者の皆様には多大なご迷惑をおかけしたように記憶しています。2年目には前年の反省からある程度事前準備も怠りなく、大会本番に臨んだものの満足できる大会にはなりませんでした。そして、最終年の今年の大会こそ参加者の思い出に残るよう頑張ろうと意気込んでいましたが、終わってみれば何かしら物足りなさが残っています。しかしながら全国でも指折りの小さな協会が、3年間やり通すことが出来た達成感を味わうことができました。このことは今後の徳島県協会の大きな財産として残っていくと確信しています。

特に、少数の運営役員と大学生・高校生が大半の補助員は、全国の予選を勝ち上がってきた選手の皆さんに、"徳島に来て良かった"と思っていただけるようにとの想いで本当に3年間誠心誠意尽くしてくれました。この頑張りがなかったら選抜大会は成功しなかったと深く感謝しています。

また、競技力の点から振り返りますと徳島大会開催まで、ブロック大会を経て出場したのが男女各1回と、ほとんどこの大会には縁がなかったのです。開催地枠での出場機会が3年間も与えていただけることは、高校生にとってものすごく意義のある大会だったと思います。残念ながら男女を通して3年間で1勝しか挙げることはできませんでしたが、"価値ある1勝"であることは間違いなく、これからの徳島県ハンドボール界に励みとなることと思います。

最後になりますが、今大会を開催するにあたりご尽力くださいました日本協会・全国高体連ハンドボール専門部・四国協会・徳島県・協賛各社に厚くお礼申しあげますと共に、平成21年度からの岩手大会の成功をご祈念いたしまして、徳島大会の回顧とさせていただきます。ありがとうございました。

開会宣言　森安高体連専門部委員長

挨拶　山下日本協会副会長

祝辞　飯泉徳島県知事様

歓迎の言葉　原徳島市長様

3年間お疲れ様でした（大会事務局のみなさん）

選手宣誓　女子：小笠キャプテン（徳島・城北）と、男子：森キャプテン（徳島市立）

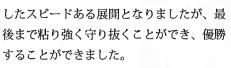
男子優勝：北陸高等学校（福井県）

平成 20 年度全国選抜大会を振り返って

北陸高等学校男子ハンドボール部監督　志々場 修二

　まずは平成 20 年度第 32 回全国高等学校ハンドボール選抜大会におきまして、昨年度に続き連覇できましたことに対し、日頃よりご支援ご協力いただいております学校関係者の皆様、県体育協会、県高体連の皆様、ご父兄、ＯＢの皆様に深くお礼申し上げます。有難うございました。

　本大会では、初戦からアグレッシブなディフェンスと、スピードあるオフェンスという持ち味を発揮することができました。また、１年生も多く、不安材料もありましたが、それぞれが日頃の練習の成果を十二分に発揮し、試合ごとに自信をつけていくことができたと思います。

　決勝戦は、昨年のインターハイで敗戦した興南高校との対戦となりました。両チームの持ち味を生かしたスピードある展開となりましたが、最後まで粘り強く守り抜くことができ、優勝することができました。

　徳島県では、平成１０年度のインターハイ３位、ここ三年間の選抜大会では、準優勝に続き、二連覇と大変思い出深い地となりました。

　最後になりましたが、今大会で運営にあたられた大会関係者の皆様、会場で応援してくださった皆様に心よりお礼申し上げます。本当に有難うございました。

女子優勝：名古屋経済大学市邨高等学校（愛知県）

全国選抜大会に優勝して

名古屋経済大学市邨高校ハンドボール部監督　浅野 清隆

　この度は、第 32 回全国高等学校選抜大会において優勝することができ大変嬉しく思っています。これもひとえにご支援、ご協力いただいた学校関係者の方々、保護者の方々、愛知県の先生方のおかげであると深く感謝しております。誠にありがとうございました。

　今年のチームはサイズこそ昨年より小さいですが、昨年からチームの主力であった加藤夕貴、福田美彩、宮地令子の三名がおり、県予選や練習マッチを通す中でかなり期待できるのではと感じておりました。途中、東海ブロック予選でポストの福田が左膝前十字靭帯を断裂し、選抜大会は欠場せざるを得ないだろうというアクシデントもありましたが、その危機もその後の県外チームとの練習マッチや、この度の春の中学生選手権大会男子で優勝したはとり中学との合同練習を重ねる中で十分戦えるだろうという状態で徳島入りをすることができました。

しかし、初戦である２回戦の松浦学園城北高校戦で攻守ともに要となる加藤夕貴がチャージを受けた際に足首を負傷するアクシデントがあり、その試合は勝ったものの、それ以後はどうやって戦っていこうかと悩みました。３回戦の華陵高校戦では約50分弱の時間帯を加藤夕貴がいない中でチームの全員が一丸となり残された選手、代わりに入った選手が活躍し、延長戦の末に勝つことができました。４回戦の不来方高校戦、準決勝の四天王寺戦では、帯同していただいた加藤トレーナーのケアや男子愛知高校に帯同されていた奥村接骨院の奥村院長の治療の甲斐もあり、何とか加藤が出場することができ、そのことによってディフェンスが安定し市邨本来の守って速攻のハンドボールができ勝利することができました。

戦　評

【男子】

▼準決勝

北　陸　45（20－14、25－14）28　県立不来方

［戦評］開始直後に得点した北陸ペースかと思われたが、長身・森田のロングシュートなどで両校とも取られたら取り返すという展開。激しい試合展開で互いのＧＫの好セーブなどディフェンス力の高さが際立つ。前半21分過ぎから北陸ペースとなる。攻撃的ディフェンスからの速攻などでスピーディな試合運びを見せ、不来方との点差を広げ、20対14で前半を折り返す。

後半開始早々、不来方は森田が退場になってしまう。攻めの姿勢を崩さない北陸は、ポストを絡めた豪快なシュートなどで大量得点をあげ、不来方を突き放す。不来方も懸命の反撃を試みるが、北陸の強力なディフェンス陣の前に思うような試合運びができず、45対28で北陸が決勝へと駒を進めた。

興　南　34（17－10、17－18）28　香川中央

［戦評］序盤、香川中央は緊張からかなかなか主導権を握ることができない。興南は、堅実なパス回しやディフェンスで、相手のミスにもつけ入りリードを奪う。リズムに乗り切れない香川中央はあせりも見え始め、相手ＧＫ大城の好セーブにもはばまれて中盤10分間無得点に抑えられる。タイムアウトをとって流れを引き寄せたい香川中央だったが、相手エース山田に連続得点を許すなど主導権を握ることができず、17対10と興南がリードして折り返す。

後半、相手選手の退場などで数的優位になり、香川中央は攻め立てようとするが、またしてもＧＫ大城に阻まれる。興南は統率のとれたディフェンスで香川中央の反撃を防ぎ、前半の得点差を守って34対28で逃げ切り、決勝進出を決めた。

▼決勝

北　陸　29（15－16、14－10）26　興　南

［戦評］立ち上がり興南ペースで進んだ試合は、興南が又吉、山田などが基点となり得点をあげる。対する北陸も藤江を中心にスピーディな試合運びを見せる。両校とも点を取られたら取り返すという一歩も譲らない激しい攻防が続く。前半終了近く、又吉、玉城らの連続得点で、興南が一歩抜け出し、16対15と１点をリードして折り返す。

後半に入り、北陸が一気に４点をあげて逆転に成功。何とか反撃したい興南だったが、中盤、北陸に退場者が出たチャンスになかなか得点をあげることができず、追いつくことができない。北陸も集中力を切らさないディフェンスを見せて、最後まで興南の反撃を防ぎきり、29対26で勝利、昨年に続き、選抜大会の二連覇を飾った。

【女子】

▼準決勝

洛　北　27（14－11、13－9）20　高松商業

［戦評］お互い正確なパス回しでスピード感ある試合を展開し、互いに一歩も引かない立ち上がりを見せる。序盤は高松商のペースだったが、洛北も徐々に反撃、20分過ぎに追い

つき、角南のミドルなどで14対11と3点のリードを奪って前半を折り返した。

後半に入り、立ち上がり大山のミドルやパスカットなどから連取、高松商のペースかと思われたが、退場者を出して一進一退の展開に。洛北はあせることなく着実に得点を重ね、再びリードを広げる。肝心なところでシュートが決められなかった高松商は追い上げることができず、27対20で洛北が逃げ切って決勝進出を決めた。

名経大市邨　27（13－13、14－7）20　四天王寺

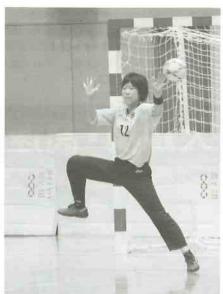
［戦評］両校ともにセットプレーからのロングシュートより得点を加える。序盤、速攻とポストを使った市邨が、一進一退の展開から抜け出してリードを奪う。四天王寺も退場者を出すピンチを何とか凌ぎ懸命に食らいつく。3点のリードを許した四天王寺がタイムアウトをとってから反撃、3点差を追いつき、13対13の同点で折り返す。

後半に入り、市邨が先行するが四天王寺が追いつく展開。11分、四天王寺の退場により市邨が一気にたたみかけ3点差をつける。四天王寺も懸命に反撃するが点差を縮めることができず、逆に確実に得点を重ねる市邨に引き離され、27対20の7点差で終了、市邨が決勝へと進出した。

▼決勝

名経大市邨　19（10－7、9－11）18　洛　北

［戦評］序盤、洛北はなかなか調子があがらず苦しい試合展開となる。一方、市邨は加藤（夕）、加藤（璃）両選手の得点などでリードを奪う。主導権を奪いたい洛北は、昨年からの主力である中山、角南（涼）両選手を軸に攻めるが、相手ディフェンス陣に阻まれる。結局、前半は10対7と市邨が3点をリードして終了した。

後半に入り、洛北は開始5分で前半の点差3点を追いつく。同点となって両校とも一進一退の攻防を展開。しかし、10分過ぎから4連続得点をあげた市邨が再びリード、洛北も懸命の反撃を見せ、何度か追いついたものの、最後は残り3分に決勝点をあげた市邨が1点差で逃げ切り、見事優勝を飾った。

洛北高校の強さに迫る

インターハイ４連覇、２年連続３冠の洛北ハンドボールの根源は…選抜大会会場の鳴門アミノバリューホールにて洛北高校・楠本繁生監督インタビューしました。

○チーム作りの基本的な考えをお聞かせ下さい

私の考える指導のポイントは、選手自らがやりたい気持ちを持たせること、即ち自主性を如何に持たせるかが最大のポイントです。又、チーム運営では選手・保護者・指導者が夫々上手く連携していくことも大切ではないでしょうか。

○日々の練習での指導のポイントは…

基本を大切にしています。公立高校であり練習時間（２時間半）も限られた中で、反復練習で基本をしっかりと身に付けさすこと、又、個々人が意識を持った質の高い練習ができるように心掛けています。

○攻撃面でのポイントは…

競技特有の数的な優位を如何に作っていくのか、最終的には、２対１の状況をどう作るのかを練習しています。

○守備面でのポイントは…

対戦相手によっての守備シフトはあり得ると考えますが、戦術的に後手を踏まない、次の攻撃の予想をし如何に早く守備体型を取るか、頭と体が素早く判断できるよう反復練習と、チームとしての約束事を徹底しています。

○ご自身、強さの秘訣はどのように捉えていますか…

自分では普通の指導・教え方をしていると見ており、他の指導者の方と比べてもそれほど違っているとは考えていません。でも、他の指導者が練習に見学にこられた折、"短い練習時間ではあるが、凄くパワーを必要とする指導ですね。疲れるでしょう"と言われた事があります。できるだけ、目で見せて頭にイメージさせて理解させ、反復練習をする。言われて、"はい"では片付けないで判らなければ最後までフォローして教えるように努めています。ドリブルのつき方、足の運びなど細かく指導していますが、自分自身ではこれが"普通"ではないかと捉えています。

○最後に地元開催でのインターハイですが、５連覇に向けて…

これまでも度々選手は違っています。その時々の"チーム"が一つ一つ積み重ねてきた結果であると考えています。反省・課題も多々あり、それを踏まえての試合をより多く経験してきましたが、振り返れば結果として４連覇でした。

インタビュー後の感想：

インターハイ４連覇、２年連続３冠の洛北ハンドボールの根源を一つでも探ることができないかがテーマでしたが、文章では上手く表現できないのが現実です。楠本監督の実直なインタビューの応対にも感謝をするとともに、「ローマは一日にして成らず」、日々での基本を大切にした反復練習の積み重ねが、洛北の強さではないでしょうか。選手に対しては、判らない事は徹底して教え、自主性を尊び、保護者・学校と三位一体での連携強化も基盤にあるのは間違いないところです。５連覇・６連覇と可能性は高まっています。

選抜大会…徳島から岩手・花巻へ

３年連続で徳島で開催された選抜大会は、次回、21 年度から岩手・花巻大会へとバトンタッチされる。そこで、徳島・大会副委員長の佐藤公美さんと、次回開催の岩手県高体連専門部委員長 中島昭博さんに伺いました。

■徳島・大会副委員長の佐藤公美さんから

徳島における、ハンドボール競技の普及とレベルアップを目指して、この３年間徳島で開催してきました。徳島はハンドボール競技人口も少なく、運営面では特に役員の確保に苦労をしてきました。３年間開催をして、徳島のハンドボール人気は確実に高まってきましたが、チーム力の底上げはいまひとつの感があります。最後の大会の今年は是非とも一つ勝ちたいと考えています。（本大会では、見事、城北高校が一勝しました）運営では、３月に入りプログラムや役員の配置の手配などが大変でありましたが、４月には小・中学生のクラブが徳島市内に発足の予定であり、これをきっかけに徳島県全体の強化につなげていければと考えています。３年間ありがとう御座いました。

■岩手・花巻　岩手県高体連専門部委員長　中島昭博さんから

高体連役員より、何とか岩手で選抜開催の手を挙げてみたらとの助言もあり、21, 22, 23 年（23 年はインターハイの開催も花巻で予定）の３年間、岩手・花巻で開催することになりました。会場は、全日本マスターズ大会でも利用した花巻総合体育館、花巻市民体育館、富士大学を予定しております。23 年のインターハイ含めて、３年間で４回の全国大会開催ですので、味わいのある演出で３年間に何度も訪れる選手にも楽しんでいただける大会としていくために、これから大会実行委員会を立ち上げて具体化をしていきます。今後の大会運営に関しまして、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

平成21・22年度　(財) 日本ハンドボール協会・役員

役職	氏名	
名誉会長	米倉　功	
会長	渡邊佳英	
副会長	市原則之	
副会長	多田　博	
副会長	山下　泉	
副会長	川上整司	
副会長	鶴保庸介	
専務理事	川上憲太	マーケティング本部長
常務理事	高村誠一	総合企画室長
常務理事	伊藤宏幸	総務本部長
常務理事	角　紘昭	普及指導本部長
常務理事	西窪勝広	強化本部長
常務理事	江成元伸	競技本部長
常務理事	蒲生晴明	総務副本部長
常務理事	大橋則一	マーケティング副本部長
常務理事	志々場修二	競技副本部長
常務理事	植村　彰	競技副本部長
常務理事	田中　茂	日本リーグ委員長
理事（実連）	工藤雄三	全日本実業団連盟
理事（学連）	松井幸嗣	全日本学生連盟
理事（高体連）	河先　修	全国高等学校体育連盟
理事（東ブロック）	稲生　茂	東ブロック（関東ブロック）
理事（中ブロック）	城川俊久	中ブロック（北信越ブロック）
理事（西ブロック）	山本　一	西ブロック（中国ブロック）
監事	塩川安賢	
監事	荘林康次	
監事	高田日呂美	

役職	氏名	
参事	石塚廣一	全国中体連
参事	古屋正俊	全国高専体協
参事	小西博喜	全国車椅子連盟
参事	小島収治	北海道ブロック
参事	高山重雄	東北ブロック
参事	杉本眞一	東海ブロック
参事	前川和三	近畿ブロック
参事	佐藤公美	四国ブロック
参事	佐藤喜一	九州ブロック
参事	坂本静男	アンチドーピング
参事	関　健三	NTS
参事	中野利一	10万人会
参事	堀　美和子	総務（広報）
参事	村松　誠	総務（財務）
参事	近久紀人	総務（機関誌）
参事	出原　理	総務（インターネット）
参事	笹倉清則	指導委員会
参事	佐藤　靖	普及（学校体育）
参事	大原康昇	普及（ビーチハンド）
参事	小山哲央	普及（マスターズ）
参事	大村　久	普及（副本部長）
参事	山本　繁	普及（小学生）
参事	井口京子	普及（女性）
参事	佐久間克彦	強化（医事）
参事	福地賢介	強化（アドバイザー）
参事	田中　守	強化（情報）
参事	後藤　登	競技（国際）
参事	越田義昭	競技（審判指導）
参事	仲田　稔	競技（審判国際）
参事	藤森　徹	マーケティング
参事	兼子　真	総務（事務局長）

～強化と強化の狭間で～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

サッカーJリーグを観戦に行った時のことだ。顔見知りのクラブ強化担当者が苦悩に顔をゆがめて話しかけてきた。

「幸いにもうちのクラブから日本代表に呼ばれる選手が出てきたよ。これまで頑張ってきたスタッフの苦労が実ったとうれしく思っている。でも、こうなると別の問題が起こってきたんだ」

この話を聞いたこちらはキョトン…。

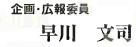
「なぜなの。喜ばしいことじゃないの」

疑問を投げかけると、彼は続けた。

「分からないだろうな。実は代表に招集されることは、当然ながら本人のためにもいいし、これまでの努力のたまものだと思う。でもな、チームと代表合宿を行ったりきたりになる。疲れも心配だし、何より、うちのクラブで他の選手と一緒の練習が中々難しいんだ。コンビネーションをうまく取れるか不安なんだ。選手層もまだ薄いしね」。

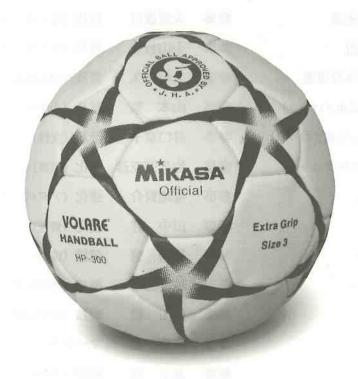
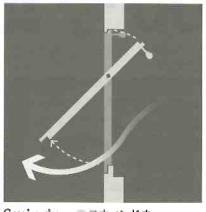
言われれば「ああ、そういった問題も出てくるんだな」。彼の苦しみが、一方で理解できた。

確かに彼の言うように代表に招集されたことはクラブにとっても本人にとっても名誉なことだし、代表強化のためには「ノー」と断るわけにはいかない。しかし、在籍するクラブの強化という面を考えれば、不安にもなるだろう。若い選手だけに「おごり」が出てくる心配もある。

「われわれの目の届かないところでの行動が分からないし、まだまだじっくりとプレーの質を上げていくべきだと思っているんだ」

彼の話を聞けば、喜び半分、心配半分といった心境なのがよく分かる。

これは何もサッカーの世界に限ったことではないはずだ。ハンドボールにしてもしかり、他の競技にしてもしかりだろう。

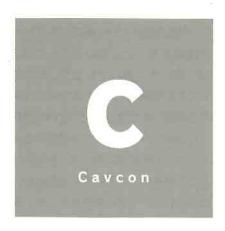
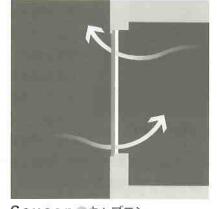
「大丈夫だよ。しっかりしているから、取り越し苦労ではないかな。でもね、自分のクラブでの練習時間が少なくなるのは、チームにとっては深刻な問題だよな」

彼にはそう答えるしかなかった。代表サイドは、強化のためには必要な選手。でも、クラブとしてもさらなる強化のためには、出来るだけチームメートとの練習時間を多くしたい。互いに「チームを強くしたい」思いは同じだが、手法は異なる。代表はあまりクラブの意向を考えれば最強メンバーが組めないのも当然である。両者の目指すところは一致しても、考えは必ずしも一致はしない。要は本人が両者の思いを理解しながら技術アップに取り組むしかないのか。難しい問題である。

呼吸する建築

Swindow●スウィンドウ

わずかな風圧も捉えて自然に開閉し、室内外の温度差で効率の良い換気が行えるバランス式逆流防止窓。

Wincon●ウィンコン

内蔵の調節弁により、風の強弱に影響を受けにくく、定風量で換気が行えるヨコ型定風量換気スリット。

Cavcon●キャブコン

内蔵の調節弁により、強風時でも一定の風量で換気ができ、無風時でも内外の温度差による重力換気が行えるタテ型定風量換気スリット。

NAV WINDOW 21

「呼吸する建築」。それは人が呼吸をするように
建築が自然に空気を取り入れ、建物内部の空気を新鮮に保ち
不要なものを排出するシステムを持つことです。
自然換気システム＝NAV WINDOW 21は
これまでの建築の機械空調と共存し
建物を取り囲む風を読み、建物内に風の道を作りそれを状況の変化に
あわせて制御する画期的な換気システムです。

三協立山アルミ株式会社
東京本社／〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル20F〈環境商品部〉 TEL (03) 5348-0367
インターネットホームページ http://buildingsash.net/

500号記念座談会 その1

協会・機関誌も本5月号にて500号の歴史を迎えることになりました。そこで、500号記念企画の一つとして、これまでに機関誌編集活動にご尽力戴きました諸先輩各位にお集まり戴き、当時を振り返り様々なお話を伺う事と致しました。
ご出席いただきましたのは、

杉山茂様、藤本強様、平岡秀雄様、川上整司様、植村繁様（編集に携わった年代順）

の方々です。
機関誌編集委員会からは、近久紀人、川村浩一、小林弘樹が同席しました。

前列：左から、杉山氏、藤本氏、植村氏、後列：左から、小林、川上氏、近久、平岡氏

近久紀人編集長

近久：皆様、本日はお集まりいただき有難う御座います。５月号で機関誌通算500号という一つの区切りを迎えることになりました。そこで過去に機関誌編集に携わっていただいた方にお集まりいただき、当時のご苦労話など色々なお話を伺い、500号記念誌の中で掲載を考えております。自己紹介が遅れましたが、私は日本協会の機関誌を担当致しましてかれこれ十年位になります。先々代の編集委員長は村松さん、先代は北村さんでした。北村さんは茨城大のご出身で、機関誌活動に非常に献身的に行動していましたが、平成18年２月に事故で急死されました。そこで、翌年から機関誌編集委員長を務めさせていただいております。

私と機関誌―創刊の精神

近久：それでは携わった年代順ということで、杉山さんから自己紹介に加えて、機関誌に関わられた経緯などをお話戴ければと存じます。

杉山：僭越ですが、集まった五人の方を代表して、まずは500号まで続けられた現役と歴代スタッフの皆さんに感謝したいと思います。ご苦労様でした。嬉しく思います。

僕自身は、実はこの機関誌の前に、1952年から1954年まで、『日本ハンドボール協会報』という協会報を手にしていまして、僕はその内容をピリッとしないと思っていたわけです。案の定それが1954年に潰れてしまう。そのあと1959年に僕自身はマスコミの世界に入ったのですが、何とかハンドボールというものを内外に発信したいという気持ちがありました。特に、外向けにハンドボールを発信する必要性もあるけれど、ハンドボール界内部に対して、日本ハンドボール協会がどういうことをやり、どういうことをしたいのかを知らせなければならないという思いがありました。僕は学生時代から日本協会の幹部とそういう話をしてきたので、当時の日本協会の会長に、機関誌を作ろうじゃないかと持ちかけました。サッカー、バレーボールであるとか、陸連時報とかいったものを目標にして、ハンドボールでもそういうものに肩を並べるようなことがやりたいということを言ったら、「やってくれる人がいたら是非やる」ということでした。それで「僕がやりましょう」という言い方をしたんですね。

ただ、その「僕がやりましょう」と言った裏には、日本スポーツ新聞社というスポーツ用品メーカーの業界誌をやっていらっしゃる方の存在がありました。その業界誌の方に編集

と発行を 1 年間（年 4 回）の約束でお願いし、原稿を書くのはこちらということになりました。各大学出身のマスコミにいる人全てに連絡をしまして、「ハンドボールが機関誌をつくるから原稿を書いてくれ」という頼みをしました。生意気な奴だという意見が当然あったのでしょうけれども、それを分かってくださる方もいて。「ただし匿名だよ」とか「ペンネームだよ」というようなことも言われましたが、「もうなんでも結構です」といった具合でした。その時に印象的だったのが、「日本協会批判も OK か」という質問でした。「当然じゃないですか、日本協会批判しないと意味がないじゃないですか」と答えました。

四冊目を出したときに日本スポーツ新聞社が「お手伝いはここまでで」ということになって、それ以後は全て日本協会がやることになった。で、ちょうど僕も名古屋に転勤してしまいました。それまでのように原稿は書けなくなったのですが、たまたま全国のスポーツの情報が手に入るポジションにいましたので、名古屋から原稿を送って工面する、というようなことをやっていました。いろいろやっていくうちに藤本さんという素晴らしい方に会いまして。それから後は、二人で無我夢中でやりました。二人の仕事が終わったら夜 9 時に印刷屋さんに集合、そこから二人で 12 時位まで作業をしました。藤本さんの情熱、語学力、そういうことから海外ニュースも出てくる。そのうちに、機関誌を楽しみにしているというお世辞みたいな声も聞こえてきた。ともかく機関誌というものが、「ハンドボール」という名前の雑誌が皆様方の手に取ってもらえることになった。

藤本：ちょうど私が引き受けたときというのは高嶋体制から荒川体制への転換の時期だったんですね。機関誌が月刊になってから丸 2 年過ぎた。月刊化するにあたっては第三種郵便にしてもらっていたので少なくとも年 11 回は出さなくてはならないという制約があったのですが、最初に 2 か月空いちゃった。認可を取り消されかねなかったんですけれども、何とか取り消されずに続いた。それからも年に 11 回はどうしても作らなくてはいけなかった。今と違って、当時は活版といって、鉛でできた活字を一字一字はめ込んでいく。だから、今だったら一字差し替えるのは大した手間じゃないけれども、当時は全部引っこ抜いて差し替えましたから、文字が横に寝転がったり、逆さになったりすることもありました。そういう意味では、当時は 30 何ページありましたから、それを全部校正するというのは大変なことでした。

杉山さんには国内の様々なものを、アンテナを高くして集めてもらった。チームから機関誌購読代をとっているわけだから、とにかくそのチームの記録を一つでもいいからと、地方からもらった。大会のあるときはちょっと乗り切らないくらいの原稿があるのだけれど、大会がない時期もありました。当時だと特に一月、二月、三月かな。その空白を何とか埋めなければならない。そこで色々なところから引っ掻き集めたものを使って、技術論の記事を作ってみたり、杉山さんが日本のハンドボールの歴史をずっと書いたり、私は世界のことを書いたりしました。そういう埋め草を作るのは結構大変だったのかな。

藤本強氏

1973 年に私が網走の近くへ転勤することになりまして、ファックスなんてまだなかった時代ですから、あとは杉山さんによろしくということで担当を外れました。それが私の機関誌との関わり合いということになります。

私と機関誌―機関誌しかやらないことを

平岡：私が東海大学に就職したのが 1977 年です。その頃から日本協会で活動するようになりました。32、33 歳の時ですから、まだ充分な力はありませんでした。ただ、協会機関誌が 1 年以上も滞っており、理事長から「何とかしろ」との命を受けました。自分としては全く経験も無く、機関誌の空白を埋めるために原稿を書く能力もありませんでした。杉山氏が長く協会機関誌に携わってこられたことと、情報収集力の凄さを知っていましたので、杉山氏の協力を得られるなら、機関誌委員長を受けても良いと返事し、それが実現しました。2 年間担当したと思いますが、機関誌発刊の遅れを取り戻すことだけを目標に頑張り、予定日に発行できるまで回復しました。ただ、私が回復させたというより、杉山氏に回復して頂いたと言ったほうがいいですね。

この頃は、スポーツイベント社のハンドボール誌も発刊されており、協会機関誌の位置づけを考えたことがあります。スポーツイベント社の雑誌は写真などが多く、読者が読んで楽しめるものでした。一方、協会機関誌は協会の広報誌と考え、議事録や大会記録を残すよう心がけました。全国大会だけでなく、可能な限り地方の記録も残すようにしました。

その頃、苦肉の策ではあったのですが、機関誌のページ数を稼ぐため、「委員会便り」というコーナーを常設しました。機関誌発刊の遅れを取り戻すために、各委員長も協力してほしいとの考えからでした。苦肉の策でしたが、協会の活動を分かりやすくするために役立ったかもしれません（笑）。

今日では日本協会のホームページに、大会情報を含む膨大

平岡秀雄氏

な情報が掲載されていますが、当時はなかなか情報や原稿が集まらず、機関誌発行の遅れを取り戻すのに四苦八苦していましたので、協会機関誌の在り方にまで、考えを巡らす余裕も能力も無かったと言ってよいと思います。

余談ですが、機関誌の発行予定日通りに出版できるようになって間もなく、私は機関誌担当を外されてしまいました（笑）。

川上：私は技術委員会に入ったんですよ。今は強化委員会というのでしょうか。そのうち普及委員会へ行ったりしましたけれども、また技術へ戻ったりして。そうしているうちに、機関誌担当になった北川さんから「協力してくれよ」と言われましてね。それでまず杉山さんにお願いして少し続けていただいていたのですが､杉山さんご自身も難しくなったので、引き受けることにしました。この頃に、ベースボールマガジン社の鴨門さんに委員会へ入ってもらえるよう頼んだ。当時はまた遅れが出始めていたのですが、プロの鴨門さんが編集に携わってくれたことで、上手くいくようになりました。ただ、藤本さんが仰ったように、とにかく誤字脱字の訂正が大変でした。事務局の方に「次の号で訂正を出してくれませんか」と言うのですが､「いやそんなことはできませんよ、出したら終わりですよ」と。

それにしても創刊号は素晴らしいですね。あれは読んでいて本当に夢を与えられる。我々も一時はもっと面白くしようとは思っていたのですが、なかなかそうはいかなかった。とにかく原稿がきたらそのまま出す。海外へ出たら監督や団長に記事を書いてもらう。今もそういう感じですね。とにかく追いつくようにやりました。原稿はなかなか集まりませんでしたが、何とか間に合った。

川上整司氏

辛かったのは評議員会ですね。全国理事会や評議員会で吊るし上げられて、購読料のことで機関誌が集中的に責められたことがありましたね。

植村：私は皆さま方と違って、ハンドボールと関係したのが非常に遅くなりまして。40代後半からハンドボールに関わるようになりました。日本協会の仕事を初めてさせていただいたのは、ロサンゼルスオリンピックの予選を相模原でやったとき。そのとき私が相模原協会を作ったものですから、一切を取り仕切ったのですが、それが日本協会と一緒に仕事をさせていただいた最初の経験でした。定年で会社を辞めて、時間があるのなら手伝えと、日本協会常務理事に加えていただいた。

1993、1994年の２年間、機関誌を担当させていただきました。川上先生から引き継いだわけですが、私はとにかく遅らさずに出すこと、その月の三日には発送するということを目標に取り組みました。

さっきもお話が出ていましたけれども、商業誌とは違う機関誌なのだから、協会の動きがストレートに伝わるようにしようと考えました。そのころは商業誌が色々ありまして、そちらの方は専門家が書くわけですし、商業誌ですから読む方の興味を惹く。機関誌は興味を惹くというより、協会の動きを皆さんにはっきり知っていただくということを目標に置いてやらせていただきました。三日に発送するということは定着したのだと思いますけれども、なかなか区切りが難しくてですね。試合の結果が遅れると怒られるし、それを待っていると三日に出せなくなるというジレンマに大変苦労致しました。ニュースが遅れても止むを得ないから、まずは発行日を守ろうということを心掛けました。私のときはそういった初歩的な苦労を２年間味わいました。

政党の機関誌を参考に

近久：ありがとうございました。では、発行に当たって留意されていた事、ご苦労された事などご披露頂ければと思います。それでは、杉山さんからお願いします。

杉山：いま話に出た発行日を守るというのは大変なことで、大変な努力と真剣さを要します。常に編集者が原稿を催促するのですが、それにも関らず集まらない。結局作っている人間の負担・責任になってくる。発行が遅れる、お金を払っている人は怒る、ということになってきます。原稿が集まらないということは、あらゆるスポーツの機関誌が持っている宿命的なものだと思います。

僕は、体制側からの発信、一番身近なところから発信するサンプルとして政党の機関誌を片っ端から読みましてね。政党の機関誌というのは自分たちの姿勢・理念・方針などをどうやって伝えているんだろう、と思ったわけです。票が関わ

ってきますから、分かりやすくというか、情熱的な伝え方をしていることに気付きましてね。それで、平岡さんの前になるわけですが、各委員会の委員長に「原稿を出せ」と言ったわけです。しかしなかなか原稿が集まらない。日本のハンドボール界の人たちは、日本スポーツ界と言ってもいいのですが、自分たちの持っていることを外に出そうとしないんですね。抱えこんでしまうわけですよ。それで何回か発行したあとに、僕自身が各委員会に出向いて原稿を書くという形にしたわけです。それも政党機関誌から得たものです。そうすると今度は、それを嫌がる。「そこは黙っておいて欲しい」ということを機関誌が書くわけですから。ある理事から「最近の機関誌は特ダネが多い」ということさえ言われたわけですよ。特ダネではないんですよ。その人たちが決めていることを書いているわけですからね。

杉山茂氏

そういうようなことをして結局は原稿集め、集稿業務が常につきまとうから、集稿の遅れが発行の遅れになっていく。恐らく今でも大変な苦労をされていると思います。そういうようなことは、本当に周りが協力しないと上手くいかないんですよね。外側の例えば大会の戦評などの原稿はプロの記者にほぼ無償で書いてもらい、内側についてはこっちが出かけていくということをやって、ともかく原稿を揃えるということでした。

70年代後半には、機関誌が体制的だ、マンネリだ、ということを言われました。当り前です、それは。機関誌が新しいということはない。面白みではなく、伝えるということが目的ですから。それを読ませるというのは内側から発信していくという創刊号当初の姿勢ですよね。

今はちょっと分かりませんが、70年代、80年代くらいまでは、各地の学生リーグからは記録がちゃんと来ていた。ところが記録が集まってくるシーズンが被るから、そこに集中してしまう。そこで五部・六部を落とすと、五部・六部はなぜ載らないのかという批判が出てくる。それから、五部六部の結果ではなく、五部六部入れ替え戦の結果を待っている読者も多い。色々な要望が出てくるわけですね。でも各地の社会人や実業団には、機関誌にこの原稿を送ってやろうという気概があまりなかった。高校界も催促しないと出揃わない。

皆さんには
もっと発信することを考えてもらいたい

藤本：やはりハンドボール界に、発信していこうという心のある人がそう多くないことが一番の問題ではないでしょうか。期間が限られた中で発行しなければならないから、こっちが書けるものは書くけれど、やはりどうしても内容が偏ってきてしまう。それから私がやっていたときというのは、ハンドボール界にはミュンヘンオリンピックという非常に明確な目標があったわけですね。そこにはかなり集中できていたんじゃないかと思います。そうすると、国内の様子を詳しく知らせることは利敵行為ではないかという批判が生じる。でも私は、それはやはり違うと思って、国内のこともつぶさに伝えようとしました。そうするうちに、非常に多くの方が様々な形でもって機関誌を見て、それで多様な見方があるんだなということをつくづくと思いましたね。それから、今はどうなさっているか知らないけど、とにかく写真を入れなけりゃならない。そうすると、どうしても欲しければ、こっちが出向いたところの写真でカバーしなきゃならないことになる。特に海外の場合､「下さいよ」と言ってもなかなか来ない。そういった問題はずっとつきまとっていました。もうちょっと皆さんには発信することを考えて欲しいなと思いつつ過ごした期間だったと思います。

平岡：さっきも話したんですけれども、基本的には私のときには遅れていたので、とにかく一日でも早く出すということを心掛けていました。あとやはり原稿集めですね。2002年以降総務にいたので、協会が委員会を開いたときは協会の予算を使って交通費を出すのですが、その際に会議の報告義務をきちっと書き込んでおきました。「会議の議事録は提出すること」という具合にね。その辺から将来に向けてバックアップを行ったつもりです。やはり原稿集めですね。

川上：インターハイや選抜等の優勝監督に原稿を依頼するのですが、それがなかなか来ない。ある監督は三回頼んでも一回も書いてくれないということもありました。出してくれる監督というのは限られていましたね。そういう点では非常に残念でした。何回頼んでも書いてくれない、そういう苦労がありましたね。

それと、ロサンゼルスの前の年だったと思うのですが、ベースボールマガジン社の社長と協会側とが会ったんですよ。ベースボールマガジン社が月刊誌を出すことになったのですが、その中に協会便りを入れるかという話があった。結局、今までやってきたんだからということで、協会便りは機関誌が出すことになった。そんなこともありました。

植村：私が編集をやったときは、楽ではなかったけれども、原稿で死ぬ思いをしたというようなことは一度もなかった。

植村繁氏

しょっちゅう顔を合わせますから、出さなきゃギャーギャー言うもんでうるさいからって書いてくれた。だから皆さんほど原稿集めに苦労はしなかった。

これは皆さんのようなハイレベルの話ではありませんが、いっぺん機関誌のことで大変揉めたことがありました。以前はB5の変形だったんですが、それを今のサイズにしようと思ったんですね。もっと写真も入れたいし、大きいサイズにしようと。これが大反対に遭ったんですよ。今まで一号からためているファイルをどうしてくれるのかと。それに合わせて棚を作っちゃったからダメだとか。もうえらく揉めましてね。結局その案はボツになった。そのときは叱られました。そういうことがありました。

川上：それは色々意見があったと思いますね。

平岡：今となったらA4でいいんですけどね。

記録の重要性—機関誌ＰＤＦ化によせて

近久：今度500号を機会に、創刊号から500号までをPDF化し保存します。ですから過去の機関誌を一冊ごとに見ることができますし、場合によってはプリントアウトすることもできるようにしていきます。

杉山：素晴らしいことだと思いますよ。そういうことが行われるということは、残されるべきことがきちんと記載されていることが必要ですよね。何の意味もないことをPDFにしたって意味がないし。僕は80年代以降不満なんですよ。これはそのまま原稿になると揉めるかもしれないけれども。これだけアジアの情報が足りないとか何とか言っているけれど、海外遠征した監督・コーチは、機関誌に情報を提供することに対して非常に意識が低い。

例えば、いま韓国の選手の情報がないと言うでしょ。しかし、ほとんどの選手は日中ジュニア交流とか日韓高校交流とかで来ているんですよ。そのときのデータをきちんと整理すれば、身長、利き腕、ポジションくらいは分かるわけですよ。それを全部カルテにしていけば、非常に大きなデータを持つことになるはずですよね。そういうようなことが全く無い。全日本の選手に対する記録もすぐには集まらない。これは全部揃わないなと思って、最後には選手に聞く以外ないわけ。「君はあの試合で何点入れた？」というふうに。そうすると当人は誇り高く覚えているわけです。ところが合計すると総得点を上回る（笑）。

竹野、木野、蒲生氏などが監督だったときには、記録や資料をよく持ち帰ってくれた。ところがジュニアと女子にはそのような習慣があまりない。今でも女子は10年前のソウルカップのスコアが無いと言われます。そうすると、田中美音子さんの全記録というものが揃わないんですよ。それだけ抜けるわけです。つまり、監督・コーチに、日本のユニフォームを着た選手に対する温かさがほとんどない。そういうものはきちんとどこかで習慣づけないと、PDFであろうがディスクであろうが、意味がない。あの選手がどうだったか、そういうことでしょ？　やはりそれが習慣づけられないと。そこのところをカバーしていくというような姿勢が日本協会にはない。ファイル化されていくというのだったら、ファイルの意味というものをちゃんとしていかないと駄目でしょうね。

川上さんのときにイヤーブックを作りましたよね。僕はあれが続くと思ったんですよ。しかし続かなかった。記録が揃わない大会があったからです。そうなったらイヤーブックではなくなってしまう。それで一年休むともう駄目です。だからたとえば高専の大会なんてものは機関誌と日本協会が面倒を見てあげないと絶対駄目なんですね。こっちから手を差し伸べる。藤本さんや僕の時代、各地の学生リーグ関係者は機関誌に実に熱心に記録を送ってくれました。

次号（今後の機関誌への提言など）へ続く

ドクター・水素水

特殊セラミック＆エンバランスTスティック
簡易型水素発生「生」水器（水素発生ミネラルスティック）

豊富な水素が　水を変える！

フレンディアはJADMA（日本通信販売協会）の正会員です。
JADMA
社団法人日本通信販売協会会員

健康は毎日の飲料水から…

※本製品は改良のため予告なく仕様・デザインを変更する場合があります。

500mlのお水にドクター・水素水スティック１本を投入。
約120分後、水温21度における容存水素量0.48ppm。（当社測定値）

日本医学交流協会医療団
（ＮＰＯ認証　東京都）

当商品は認定を受けています。
http:/www.drp.ne.jp/で認定確認できます。

特許公開番号：2004-41949
韓国特許登録：529006号
米国特許番号：7189330

原材料／金属マグネシウム、天然石
サイズ／19×132mm

価格／1箱4本入り 13,440円（税込み）

水の入ったペットボトルなどの容器に
スティックを入れるだけ。
2リットルの水道水にこれ１本！
しかも**6ヶ月と長持ち**です。
１日2リットル作ったとして、
たったの24円と経済的。

株式会社フレンディア

〒107-0062東京都港区南青山5-10-13 デコパージュ南青山4F
TEL:03-5948-5011　FAX:03-5948-5263
フリーダイヤル 0120-372-132（みんなに いーみず）

株式会社フレンディアのウェブサイトを併せてご覧ください。

http://www.dr-suisosui.com

特別寄稿 500号発行に寄せて

500号発行に寄せて 「回想と期待」

安藤純光
（財）日本ハンドボール協会参与

日本ハンドボール協会が、1960年に機関誌を発刊して間もなく50年、この5月には「500号記念号」と聞いて、改めて表紙の№を確かめ、手元の書棚にある黄ばんだ第1号からのベージをめくり、発刊の当時を回想しております。長年にわたって絶えることなく出版され、今日500号迎えることを喜び、お祝いを申し上げます。この間に発刊が滞ったり、継続が危ぶまれたりすることもありましたが、その都度機関誌を支えた各位の大変な努力とご苦労があって、今日を迎えることが出来ました。出版に尽力された各位に、改めて賛辞とご苦労様を申し上げたいと思います。

機関誌の発刊に当たって、会長 式場陸三郎氏は第1号の「巻頭言」に『高遠なる理想の礎石たれ』と題して発刊の喜びと期待を述べておられます。

【昭和12年 日本にハンドボール協会が出来てスポーツとしてのハンドボールが我が国に芽生えてから22年経った。しかし「ハンドボール」という競技を知らない人はまだまだ多いし、「ハンドボール」という競技の名前さえ知らない人もいる。22年の時日を刻みながら一般に対する普及は、最近になってようやく軌道に乗り始めたとは言え認識の低さ、少なさは他のスポーツ競技に比べるべくもない。プレイヤーの増加も必要だが、ハンドボールを見、ハンドボールを楽しむファンの増加を心がけなければいけない時期が来ていると思う。そうした時に雑誌「ハンドボール」が生まれることは誠にタイムリーであり、この雑誌を通じてハンドボールのよさを大いに普及して貰いたい。】（以下略）

1960年発刊当時のハンドボール協会と、取り巻く環境は全ての面で未熟でした。競技を解説する指導書などの出版物は殆ど見当たりませんでした。僅かに日本協会が発行する競技規則書が唯一の頼りでした。式場会長の云われたように他競技から遥かに遅れた存在にあったハンドボールが、今日他競技に伍するところまで到達できた原動力の一つは機関誌の発刊であったと言っても過言でないでしょう。機関誌は当初競技の経過や結果、ハンドボール界を巡る話題を報じていました。そして次第にトップチームの指導者による技術指導的な論文も掲載されるようになりました。その刺激を受けてより高度な技術が展開されるようになりました。一方ルールの解釈・運用・適切な判定なども研修会の結果を誌上に掲載するようになり、競技の発展を促す力となってきました。その意味で機関誌も競技力の向上に資するところは大きかったと思います。さらにやがて10万人の目に触れる機関誌の使命は大きいと思います。

数年前に元ナショナルチーム関係のOBからの年賀状の添え書きに「日本のハンドボールはどうなっているのかね」とありました。長いこと世界から遠ざかり、アジアのキング・クイーンの座を明け渡していることを心配しておられました。昨年の前代未聞のオリンピック・アジア予選のやりなおしでは、かつてない多くの人がハンドボールに目を向け耳を傾けました。小生の周囲の人達も「初めて見た」「面白い」と話題にする人が多くなりました。しかし、ここ十数年機関誌にも華々しい活字を見ることがありまん。

「北京は終わった、次はロンドンで頑張ります」だけではなく、勿論対策は既にスタートしているでしょうけど、機関誌はナショナルチームの活動・強化計画などを逐一誌上に掲載するべきだと思います。そうすることによって増えたファンは声援を送るでしょうし、それに応えてチームは強化に励むのではないでしょうか。いずれにしても、ことは一朝一夕で開花することではありません。時間は掛かりますが、地道な努力がやがて実を結ぶ時が来るのではないかと思います。

年寄りの戯言と読まれるかも知れませんが、機関誌も競技力強化の役割を担っていることを述べ拙文を終わります。

500号発行にあたり 新しい機関誌へ

川上憲太
（財）日本ハンドボール協会専務理事

平成21年度を迎え、日本協会は新しい体制と事業計画でスタートを切りました。前号（2009年4月号）にその事業計画を掲載させていただきました。

北京オリンピックアジア予選のやり直し大会でハンドボールが大変注目され、その認知度は急激に高まりました。しかし、オリンピック出場はまたしても成りませんでした。オリンピック出場、世界選手権常時出場、メダル獲得は日本ハンドボール界にとって悲願であり、これまでハンドボール界の発展のために多くの皆様が汗を流しお力添えをいただいた“思い”でもあると考えます。

さて、日本協会機関誌が500号発刊を迎えました。これまでに御尽力いただきました多くの皆様にあらためて感謝申しあげますとともに、敬意を表したいと思います。機関誌が日本ハンドボール界の発展・推進に多大な貢献を果たしてきたことは言うまでもありませんが、インターネットの急速な

発展が、いままでの情報伝達のしくみを大きく変えてしまいました。このような中、「機関誌の役割・在り方はこれで良いのか」との声も聞こえてきます。しかし、これからも、ハンドボール競技を楽しむ人がたくさん増え、「走る、投げる、跳ぶ」のスポーツの３要素をすべて備えたこの競技が、国民の心身の発育に寄与し、ハンドボール界がますます発展するために機関誌の果たす役割は大変重要なものがあると思います。一層中味・内容を充実し、情報公開時代にふさわしい、きめの細かい意志伝達・公開に努めなければなりません。

従いまして、日本協会としても、その方法・在り方については、従来どおりの「紙ベースが良いのか」等をはじめ、種々の改革をして「新しい機関誌」に向って転換を試みなければ成らないと考え、実行に移してまいります。今後とも皆様のご理解、ご協力、ご提言を宜しくお願い申し上げます。

機関誌500号発刊に寄せて

南木貞夫
㈱スポーツイベント代表取締役

日本ハンドボール協会機関誌が「通巻500号」を迎えられたこと対し、心からお祝い申し上げます。また、小誌「スポーツイベント・ハンドボール」も本年２月号（１月20日発行）をもって1977年10月の創刊から数えて通巻400号となり、同じ年に区切りの数字を達成できたことに大きな喜びを感じています。

ひと口に「500号」と言っても、一昨年に創刊30周年を迎えた小誌より20年近くも前の1960年６月に第１号を発刊、以来コツコツと球界の長き歴史を刻み込んできたその足跡に、畏敬の念を抱かざるを得ません。また、お忙しい仕事のかたわらで編集、企画に携わってこられた歴代スタッフの皆様方のご努力に対し、深く敬意を表す次第です。

小誌にとって国内大会の情報や結果はもちろんのこと、世界情勢などを織り交ぜた機関誌のバックナンバーは非常に参考になりましたが、とくに大会記録集として1977年に発刊された第150号は大変便利に使わせていただき、すぐにも各ページが手あかにまみれたことを覚えています。さらには1987年２月に日本協会50周年記念誌として編纂された「日本ハンドボール史」に国内外の大会記録が網羅されたことで、格段に資料調べが楽になりました。

月２回発行の新聞スタイルとしてスタートした「スポーツイベント・ハンドボール」の第１号は、全日本男子が台湾・台北市での世界選手権アジア大陸予選を楽々と突破した記事がトップページを飾り、その大会で撮影した穂積豊彦選手（当時湧永薬品）のシュート写真が日本協会機関誌第158号の表紙に採用され、以来機関誌の表紙や文中で弊社写真を数多くご使用いただきました。

そのアジア予選は、日本のほか台湾とサウジアラビアのみの出場で、日本は２回総当たりの４試合どれもが30点前後の大差をつけて圧勝した記録が残っており、大会には韓国や中国、クウェートらの姿がなく、現在とは隔世の感があります。

しかし、その半年後には、世界女子選手権のアジア大陸予選で日本女子が韓国に初めて敗れた写真が機関誌に掲載されました。それまでの高校対抗戦などでは韓国優勢が続いていたものの、代表レベルでは日本リードというのが大方の見方だっただけに、韓国に苦杯をなめさせられた球界の衝撃は小さくはありませんでした。それから韓国男子も急成長してアジアの各大会を次々と制し、クウェートら中東勢が政治力をからめて台頭するなど、アジアの勢力図が大きく変わっていったのはご承知のとおりです。

100年に一度という世界大不況の中、企業に依存してきた日本のスポーツ界が危機にさらされ、さらにはインターネットの飛躍的な進歩、普及もあって協会機関誌として求められる使命にさまざまな変化が余儀なくされていると思いますし、当然同じことは弊誌にも言えるところです。「機関誌通巻500号」を大きな励み、目標としながら、男女日本代表を囲むアジアの壁をいかに突破するか、そんな意識の高まりを少しでも導き出すために微力を傾け、オリンピック復活をめざす日本ハンドボールとともに歩んでまいる所存です。この「通巻500号」を節目として、日本協会と日本ハンドボールがさらに発展されることを心より祈念申し上げます。

編集後記
機関誌500号を迎えて

500号から更なる発展へ

機関誌専門委員長　近久紀人

●昭和35年6月に創刊された本誌も、その歴史を積み重ね数えて500号を迎えることになりましたが、思い起こせば平成１８年２月、前委員長北村氏の突然の訃報に接し、翌年の４月から現在の委員長を引受けました。500号へ辿り着いたこの時宜に、今更ながらに前委員長の機関誌への深い情熱と献身的な行動を思い起こしております。改めてご冥福をお祈りすると共に、故北村氏に敬意を表する次第であります。

●改めて機関誌の役割を考えてみますと、昨今のインターネットの普及と歩調を合わせ、ホームページを利用した不特定者への情報の伝達・収集・普及は必然の流れとなっており、今後とも様々に形態を変えながら発展していくものと想像できます。即時性の提供と内容（コンテンツ）の充実を一層図る必要がありますが、コンテンツが豊富であっても、掲載する中味の質を維持することは容易ではありません。様々な協会活動の総括を関連者でレビューしその結果を報告する習慣と、過去の出来事ではなく将来に向ってどの様な施策・展開を図るのか、日本協会としてのビジョンを掲げ、関係者全員のモチベーションを挙げる行動の提起も、質の向上の観点からは必須な事です。ナショナルチームの対戦分析結果など、内部的には留保している情報の発信を随時実施していく事も大きな課題であり、これらは、日本協会ＨＰ、機関誌掲載記事の充実に直結しています。

他の競技団体の機関誌発行状況をみると、水泳・ボート・ソフトテニス・ソフトボール・サッカーの各団体は毎月若しくは年間10回以上の発行回数を維持、又、ラグビー・ホッケー・体操では年4，5回の発行態勢を整えており、当然のことながらホームページも活用しています。このことからも、ハンドボール関連者への日本協会活動の方向性や、施策の徹底と伝達、更には、理事会、委員会、専門委員会等の議事録や決定施策について積極的に情報発信することが益々重要です。又、一覧性・保管性などの視点から、機関誌の特徴を踏まえた役割は未だ極めて重要であります。商業誌（スポーツイベント社）の更なる拡大・発展も期待しつつ、この、500号を機に、機関誌のあり方について改めて考えてみる必要性を痛感しています。

●最後になりますが、今後の機関誌の掲載内容については専門委員会などでも充分論議し展開していきます。500号の編集後記として強調したいのは、機関誌を読み終わった後で、“ハンドボールへの情熱を掻き立てられ、希望・元気が沸き、具体的な行動を起こす動機付けや気付きを与える"、そのような機関誌で在りたいと考えております。今後とも関係各位のご支援・ご協力を御願いする次第であります。

機関誌の思い出

機関誌専門委員　村松　誠

私が機関誌と出合ったのは、高校生の時でした。部室に置いてあったというより散らかっていたというほうが適切かもしれませんが、これを読み始めたのが最初でした。その時には、今のように機関誌に関わるとは夢にも思っていませんでした。当時は部に専門の指導者も居らず、ハンドボールの情報を手に入れることはほとんど出来ませんでした。新しい情報としては、機関誌から手に入れるものがほとんどで、よく読んでいたと思います。

先ずは、トッププレーヤーの名前を知りました。当時は木野さん、野田さんなどが活躍されていて、名古屋で行われていた学生東西対抗戦を仲間と見に行き、クラブ内で盛んにハンドボール談議をしたものでした。次いでは、技術・戦術情報です。ルーマニア、イオンクンスト氏のハンドボールの４局面構造理論も機関誌で見たと覚えています。その後イオン・クンスト氏と面識ができ、世界選手権などでお世話になったことは、感慨深いものがあります。

私と機関誌の関りは、最初、平岡さんが編集長でしたが、各地の記録を纏めて、原稿にする作業が最初でした。当時は、縦15行の専用原稿用紙があり、これに事務局に届いた記録を整理し、書き写していく作業でした。その後、木野さんが編集委員長時代にまた機関誌に関わることになり、木野さんが常務理事を退かれたのを期に、編集委員長として編集に携わることになりました。当初は、歴代の編集長の方々が語られているように、原稿集めに四苦八苦、まさに自転車操業で、一つ終われば直ぐに次の号の心配との繰り返しでした。それでも何とか継続は出来ましたが。

それからは、徐々に人を集め、編集委員会として作業を分担し、二苦四苦ぐらいにはなったでしょうか。マスコミに興味を持っていた学生を引き込んだりもしました。特に故北村善夫君には、獅子奮迅の活躍をしていただきました。彼を失ったことは、私としては言葉に尽くせないほど残念でなりません。

私が担当している間に、400号記念がありました。この時には、まだそれほど人もいなく、大きな企画は到底無理な状況でした。やっと、歴代編集長の皆様に記念寄稿を戴くと言うことが精一杯でした。

今回500号記念にあたり、400号からその殆どに関わってきた私としては、若干の思いがあります。その第一は、既刊機関誌のＰＤＦ化です。以前から提案はしていたのですが、なかなか日の目を見ずにいましたが、今回これを機にＰＤＦ化出来るのは大きなことだと思います。私は、ある時古本市場に、ハンドボール機関誌の1号から30号までを3冊に合冊製本されたものが出たことを発見し、すぐさま買い取りました。少々値段は張りましたが、宝物を見つけた思いでした。すでに初期のものは、古ぼけ、変色しているどころでなく、ページをめくれば、紙が割れるような状況になっています。中性紙を使っているためだと思いますが、今後それほど長く持たない様子です。これらは貴重な資料であり、また関係者にとっては、大きな思いが詰まっているものでもあります。これらのものが無くなってしまうことは、大変残念なことであり、今回ＰＤＦ化されることは、大きな事と思っています。

将来を見るのに、先ず歴史を見ると言うことはよく言われることです。そのような目で古い機関誌を見てみれば、興味深い記事が数々あります。昔の日本代表選手に、なぜハンドボールをやったのかと言う質問に対して、遠征でいろんなところにいけるからと答えている方が何人かいます。競技は違いますが、私の知る東京オリンピック代表選手は、海外に只で行けることがモチベーションだったと言っています。現代のように、気軽にあちこち行ける時代では、モチベーションとは成り難くなっています。また、それぞれの時代の責任者の発言はどうでしょうか。今に通じる意見もありますが、逆にどの様な施策で、どの様に協会事業が発展して来たかという観点で見れば、諸外国、他競技と比べて日本のハンドボールはどうだったのだろうかという疑問が湧きます。ある意味で、遅れを取ってしまったと見れば、どこにその原因があり、今に通じる施策を実現できてこなかった理由は何であろうかと興味は尽きません。過去を見ることは、次の発展のヒントが数多く隠されているのではないでしょうか。

機関誌の思い出

機関誌専門委員　菊地知男

2006年4月以来機関誌の編集委員を務めています。ハンドボールは高校一年から始めて40年弱経過し、今も大学のOBのマスターズチームで活動しています。長い選手生活の間、めぼしい成果はなく、下手の横好きで続けてきました。50歳近くになってから母校の監督、その後本誌の編集委員、息子の高校の外部指導員の話が相次いであり、いずれも迷うことなく快諾しました。これらの3つは全てボランティアであり、平日の勤務時間中に束縛される要素が小さく、仕事に影響を与えることがないので続けられると感じている次第です。

500号を記念してひと言、「継続は力なり」。今後も執筆者の皆さんのハンドボールへの熱い情熱を頂戴しながら編集作業に携わっていきたいと思います。

機関誌の思い出

機関誌専門委員　川村浩一

前機関誌編集長であった北村さんの悲報に接し、駆けつけたお通夜の会場で編集員になったのは3年前。以来、勤務先の異動にともない、新宿から新横浜、南千住と勤務地が変わって編集会議になかなか参加する機会が少なくなってしまった。500号記念座談会で先輩の方々の苦労話を聞いて、機関誌が愛好者へ情報を発信する重要な役目があることを再認識しました。今後は気持ちを新たに取り組んでいきたいと思います。

機関誌の思い出

機関誌専門委員　小林弘樹

通算500号という歴史を築いて来られた先輩方のご尽力を思うと…と書こうと思いましたがやめました。500号という道程は、私ごときの想像が及ぶほど短くもなければ平坦でもなかったに違いありません。

ただ、今回の座談会に同席させていただいたことで、500冊の機関誌を積み重ねて来られた先輩方の、ハンドボールにかける情熱の一端に触れることができたように感じます。歴代編集委員の皆様への感謝と尊敬の念は絶えません。今後、自分も編集委員としての活動を通じて日本のハンドボールの発展にほんの少しでも貢献できればと思います。ハンドボール好きの端くれとしてこれに勝る喜びはありません。

平成 20 年３月 15 日・16 日の両日、駒澤大学において、第６回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本研究会は、全国の指導者が自身の経験や・知見を持ち寄り、実際の現場で有用な情報を共有する機会として位置付けられています。
研究会の発表内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。
今月は山下純平さん（筑波大学）の発表内容「第 18 回女子世界選手権フランス 2007 における日本チームに関する研究」を報告させていただきます。なお、次回より第７回の発表について報告いたします。
(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

第 18 回女子世界選手権フランス 2007 における日本チームに関する研究

―形態、国際試合経験について（IHF 公式 HP データを基に）―

山下純平、水上一（筑波大学）

キーワード：世界選手権フランス 2007、形態、国際試合経験

【研究目的】

本研究は、形態、経験という観点から日本、韓国、世界上位チームを調査し、日本、韓国、世界の現状を数値として知ることによって、個を育成するための一資料とすることを目的とする。

【研究方法】

１．研究資料作成

１－１対象チーム

第 18 回女子世界選手権フランス 2007 の出場全 24 チームより、本研究では、本大会において実力の差が大きいと考えられた下位３チーム（DOM PAR AUS）を除く 21 チームを対象とした。

１－２データ抽出

International Handball Federation の公式 HP（URL http://www.ihf.info/）より、第 18 回女子世界選手権フランス 2007 における形態（身長、体重）国際試合経験（年齢、国際試合出場数、年齢における国際試合数の割合 ‘以下 P/A’）についてのデータを抽出し資料を作成した。

１－３ビデオ調査

各チームのスターティングメンバー及びポジションを調査するために、以下の 14 試合を調査対象とし、ビデオでの調査を行った。

下線チームをその試合の調査対象とした。

Preliminary round（10 試合）

GroupA　FRA-CRO

GroupB　RUS-MKD、MKD-BRA

GroupC　NOR-ANG

GroupD　ROU-POL

GroupE　HUN-JPN, JPN-CGO, HUN-ESP

GroupF　UKR-KOR , GER-KOR

President’s Cup（1 試合）

Group Ⅳ　CHN-JPN

Placement Match（3 試合）

19/20ARG-JPN, 17/18KAZ-CGO, 15/16AUT-TUN

１－４データ処理

得られたデータを以下の①～③の調査項目に従い処理し、資料を作成した。

①各チームのメンバー全体の平均値

②各チームのスターティングメンバーについて

・オフェンス平均値
・ディフェンス平均値
・ゴールキーパー

③上位チーム 12 カ国（RUS NOR GER ROU FRA KOR ANG HUN CRO ESP POL MKD）、下位チーム９カ国（UKR BRA TUN AUT COG KAZ JPN ARG CHN）のスターティングメンバーについて

・オフェンス平均値
・ディフェンス平均値
・ゴールキーパー
・ポジション別の平均値（オフェンス）

２．比較・考察方法

資料を基に比較を行った。上位チーム、下位チームついては、有意差検定（t 検定）を行い有意差が認められた項目について考察した。

それぞれの項目について上位チーム、KOR、JPN、を比較し、示唆される課題点を見出した。

【結果および考察】

①各チームのメンバー全体の平均値身長

②各チームのスターティングメンバーについて

・オフェンス平均値
・ディフェンス平均値
・ゴールキーパー

①②の4項目については、すべてJPNは形態的に劣っており、年齢における国際経験が少ないということが示された。メンバー全体の平均値、オフェンス、ディフェンス平均値の身長、体重は最小値を示した。

③上位チーム、下位チームのスターティングメンバーについて

・オフェンス平均値
有意差が認められた項目は、年齢、国際試合経験だった。
・ディフェンス平均値
有意差が認められた項目は、国際試合経験だった。
・ゴールキーパー平均値
有意差が認められた項目は、年齢、国際試合経験、P/Aだった。

以上より、上位チームは国際試合経験が豊富であることが示された。特に、ゴールキーパーには、コートプレーヤーには差が見られなかったP/Aの値に差が見られた。上位チームは試合を経験させることによってゴールキーパーを長期的に育成していることが示唆された。

・ポジション別の平均値

上位チーム、下位チームの各ポジションの平均値及びJPN, KORの値を表1、表2、表3、表4に示した。

上位チームの値を見てみると、ポジションごとに特徴が表れていた。特にP, GKは国際試合経験が高い値を示した。LW, RWは身長、体重が低い値を示した。RW, P, GKは年齢が高かった。

上位チームとJPNを比較すると、CBの国際試合経験は上位チームと同等の値だった。形態では、LBは身長が同等の値だった。Pは身長、体重ともに上位チームの値を上回っていた。その他は全て上位チームより、形態、経験が劣っていた。

JPNとKORを比較すると、JPNは、身長について、CB, RB, RWは劣っており、LB, Pは上回っていた。BMIで体格を比較してみると、LW, LB, RBが劣っていた。国際試合経験は、CB, LBが上回っているが、その他は全て劣っていた。

上位チームであるKORは、形態、経験ともに世界上位チームと同等、または上回る項目が見られた。

表1　上位チームの平均値

	Height	Weight	BMI	Age	Played	Played/Age
LW	1.71 ± 0.0498	65.00 ± 8.40	22.36 ± 2.20	26.67 ± 3.03	86.67 ± 48.89	3.18 ± 1.57
LB	1.80 ± 0.0571	70.64 ± 4.74	21.95 ± 0.89	26.00 ± 3.22	70.25 ± 43.47	2.66 ± 1.61
CB	1.79 ± 0.0585	67.64 ± 8.10	21.20 ± 1.91	26.25 ± 4.56	85.58 ± 41.00	3.19 ± 1.37
RB	1.81 ± 0.0740	76.45 ± 8.35	23.24 ± 1.64	26.33 ± 3.58	94.92 ± 68.44	3.45 ± 2.21
RW	1.68 ± 0.0538	62.73 ± 7.52	22.01 ± 2.20	29.08 ± 4.25	90.33 ± 66.80	2.99 ± 1.98
P	1.78 ± 0.0609	72.45 ± 8.71	22.87 ± 1.91	28.67 ± 4.42	105.08 ± 73.85	3.48 ± 2.08
GK	1.78 ± 0.0550	73.09 ± 5.65	23.06 ± 1.22	30.83 ± 3.97	130.17 ± 49.70	4.22 ± 1.53

表2　下位チームの平均値

	Height	Weight	BMI	Age	Played	Played/Age
LW	1.70 ± 0.0472	64.67 ± 5.20	22.26 ± 1.15	25.89 ± 5.73	74.89 ± 55.81	2.75 ± 1.91
LB	1.80 ± 0.0391	72.78 ± 9.12	22.55 ± 2.89	23.78 ± 4.12	37.67 ± 18.41	1.61 ± 0.79
CB	1.74 ± 0.0917	69.11 ± 12.09	22.59 ± 1.96	24.33 ± 5.50	64.13 ± 56.78	2.44 ± 1.86
RB	1.75 ± 0.0518	71.33 ± 7.35	23.35 ± 2.54	24.11 ± 2.71	55.00 ± 48.45	2.29 ± 1.96
RW	1.67 ± 0.0730	62.44 ± 4.28	22.44 ± 1.32	25.89 ± 4.28	75.00 ± 57.90	2.79 ± 2.00
P	1.78 ± 0.0577	73.22 ± 6.38	23.02 ± 1.99	24.33 ± 2.83	38.67 ± 21.92	1.60 ± 0.89
GK	1.77 ± 0.0795	72.11 ± 5.51	23.15 ± 2.23	26.00 ± 5.50	61.33 ± 78.04	2.05 ± 2.12

表3　KORのデータ

	Height	Weight	BMI	Age	Played	Played/Age
LW	1.62	62	23.62	26	5	0.13
LB	1.72	68	22.99	32	98	3.03
CB	1.72	64	21.63	35	105	3.00
RB	1.80	72	22.22	27	60	2.22
RW	1.72	60	20.28	29	61	2.10
P	1.73	68	22.72	26	49	1.88
GK	1.71	65	22.23	35	105	3.00

表4　JPNのデータ

	Height	Weight	BMI	Age	Played	Played/Age
LW	1.65	55	20.20	27	25	0.93
LB	1.78	62	19.57	23	22	0.96
CB	1.61	55	21.22	32	114	3.56
RB	1.66	58	21.05	27	43	1.59
RW	1.55	52	21.64	33	47	1.42
P	1.84	85	25.11	25	30	1.20
GK	1.69	65	22.76	30	38	1.27

【まとめ】

以上のことから以下の課題が示唆された。

・形態的に優れた選手を発掘し、国際試合を多く経験させること。
・ポジションの特性を考えること。P, GKは特に国際試合経験を積ませながら長期的に育成すること。

協会だより

平成20年度 第2回評議員会

日　時　平成21年2月14日（土）
　　　　13:00-16:00
場　所　ナショナルトレーニングセンター
　　　　アスリートビレッジ研修室
評議員現在数　53名（欠員1名）
出席者（敬称略、名簿順）
［評議員］
小島収治、齋藤　浩、谷藤勝美、菅野　肇、奥山重雄、後藤義信、安田博之、山下勝司、齋藤光男、内記英夫、塩川安賢、森川利昭、平塚一彦、竹内佳明、山川博行、井川邦彦、村木啓作、夏目眞治、名倉昭弘、前川和三、中村博幸、大原康昇、中井公人、田中秀和、森江和吉、高野　修、増田雅夫、長尾輝夫、田中達男、田中　守、末次　功、佐藤喜一、齊藤節郎、河先　修、川原繁樹、木野　実
以上36名
［委任状提出評議員］
今野正志、上久保重次、中山圭三、庄司勝三、久保田龍治、藤本　昇、松原紀機、松本育男、武田末男、石井通義、大宮　泉、堀之内真澄、新垣　健、原田孝幸　以上14名
［欠席評議員］
後山富士水、三辻陽夫　以上2名
［理　事］
渡邉佳英、市原則之、川上憲太、兼子　真、江成元伸、伊藤宏幸　以上6名
［監　事］
川上整司、荘林康次、高田日呂美　以上3名
［特任副会長］山下　泉　以上1名
事務局（床尾康子、佐藤美貴、村上　隆）

以上、出席評議員36名、委任状提出評議員14名、欠席評議員2名、出席理事6名、出席監事3名、特任副会長1名、事務局3名

＜評議員会成立の確認＞

兼子総務担当より、本会議が財団法人日本ハンドボール協会寄附行為第29条に定められた、評議員定数53名欠員1名中、出席36名、書面委任14名にて3分2以上の出席があり定足数を満たしており、本評議員会が成立していることが報告された。

議事進行に先立ち市原副会長が挨拶を行った。

平成21年の第一回目となる評議員会にご出席頂きありがとうございます。

スポーツ界もアメリカのサブプライム問題が引き金となり主要産業である自動車の余波で日本も日産、武富士など影響を受けている。一昨日リーグのGM会議があり、今後の在り方を検討した。

スポーツは社会にとって必要であり、全国各地で皆さんのご協力が必要である。本日の会議ではいろんな課題をご検討頂くために先に資料を送付している。日本協会の自己責任として公益法人改正にあたり、自身の管理運営が求められる。一昨年、中東の笛により大フィーバーとなったが結局はオリンピックに出場できず不甲斐ない。ここを何とかしなくてはいけないということで、NTSを行い原点から強化を図る。本日の会議は有意義に過ごして時間があれば課題を話し合って頂きたい。

次に議長の選出が行われ、寄附行為第28条、第3項に基づき、渡邊佳英会長が議長となることが報告されたが、渡邉会長の会場到着が事故渋滞のため遅れており、寄付行為第18条第2項に基づき、市原副会長が議長を代理することとなった。

＜議事録署名人の選出＞

議長より、議事録署名人の指名が行われ、議長、内記英夫評議員、中村博幸評議員、川上憲太専務理事が指名され、満場一致で承認された。

審議事項

1．平成20年度第二次補正予算（案）について

兼子会計担当常務理事より説明された。

一般会計の事業活動収入は、特別登録料の免除、大会運営方法の変更による入場料収入なし、強化遠征削減による個人負担金減により、15,200,000円減収となり243,255,180円と補正する。また一般会計の事業活動支出は、強化遠征削減等で21,199,000円支出が減り137,111,640円と補正する。特別会計では若干の補正を行い、総事業活動費443,812,000円、総事業活動支出468,694,960円で事業活動収支差額は、マイナス24,882,960円と一次補正額より6,580,000円の節約となり、次期繰越収支差額は72,208,130円となることが報告された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．平成21年度事業計画（案）について

川上専務理事より要点が説明された。

来年度はオリンピック翌年にともない次のオリンピックや世界選手権への着実な対応が求められる。北京オリンピック後、西窪強化本部長を中心に新スタートを切った。社会情勢のとおり、協会の収入も限られてくるので緊縮財政で厳しい予算を作成した。このまま繰り越してはいずれパンクするので強化費用を切り詰めた。指導者育成は大変な課題である。リーグはシステムの改革を図る。機関誌の位置付け、目的を見直し、IT化に伴う効率化を図る。

田中守評議員（福岡）より、1）国際的な情報が得られるレフェリー・コーチシンポジウムは最近行われないがどうなっているのか。2）競技運営通達がありボールの空気圧が種別で異なるが現場で混乱を起こしていないか。3）リーグの地方開催も見たいが中央での開催をもっと増やして欲しい。4）10万人会の項目に代表選手の家族をグランド会員にとあるが、学生選手の個人負担金は実質親が捻出しており、さらに家族に会員をつのるのはさらなる負担になるのではないか。

川上専務理事より、1）のコーチ・レフェリーシンポジウムについて、レフェリーだけでなく、様々なカテゴリーの中で具体的な行動を行うと回答された。

江成常務理事より、2）ボール空気圧について、国際規則に空気圧に関する規定はないので、今後検討してゆくと回答された。

市原副会長より、3）リーグについて、今はチームに負担が掛っている。今後は地域にも落ちるようにしていかなくてはならない。

伊藤常務理事より、4）10万人会について、元日本代表のOG、OBを対象にして発展した。東京で開催された再試合の際にも多くのOG,OBやご家族に来て頂いたがそうした方々にも10万人会でサポートして頂きたいとの趣旨である。

川上専務理事より、10万人会については ご承知のとおりすでに10万人を突破している。名称も含めてご意見を参考にしつつ今後きちんと対応していく。

奥山評議員（山形）より、リーグの見直しを行うとのことだが、入場収入はどのようになるのか。山形の場合は市の一般予算にリーグも盛り込んでもらっているので公益法人となるとどうなるのかご配慮頂きたい。また、生涯ハンドについて、どのような内容を示して頂けるのか。

市原副会長より、日本における団体競技力

アップのために育成予算がついている。しかしいつまでも脛かじりではいけないので自立するためにプロ化というか事業化していくべきである。収入は普及も兼ねて小学生等にもいくらか配分していくと回答された。

川上専務理事より、マスターズは別に担当がいるが代行して申し上げる。要はトップにはつながらないが各年齢の大会が確立されてきている。生涯という表現は大きく書かれすぎているが重点施策のマスターズを整えることを考えていると回答された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

渡邊会長が到着されたので、ここで議長交代となった。

渡邊会長より遅れたお詫びと挨拶があった。

市原副会長のおっしゃるとおり、厳しい企業スポーツの中で試金石となっている。ここでいかにハンドボールが素晴らしいことを見せるかで生き残りを掛ける。再試合から一年が経ち、アジア連盟との仲は改善した。しかしレフェリー問題は依然として見受けられ、北京オリンピックのノルウェー対韓国戦では同点で迎えた最終のゴールは空中で笛を鳴らされ、その1点を認める、認めないで揉めた。これはノルウェーの会長がEHFの会長も兼ねていることから会長選挙にからむのではないかと推測される。一方クロアチアで開催された男子世界選手権ではドイツに対して厳しい笛が吹かれ、デンマーク戦ではキーパーキャッチした、しないで揉めた。これらのことはレフェリーのレベルが下がったのか意図的かはわからずフェアプレーへの道のりはまだ遠いが、これからもフェアプレーを主張し続ける。

3．平成21年度予算案（案）について

兼子会計担当常務理事より報告がされた。

平成20年度とほぼ同様の予算要望が出されたが、そのままでは当期収支差額がマイナスとなるため、ほぼ一律に10%カットの予算編成を行った。一般会計の事業活動収入は、前年度並みの242,819,580円とした。一般会計の事業活動支出は、強化費用の削減等で242,811,280円としてかろうじて収支差額を8,300円とプラスにした。特別会計ではtoto売れ行きが好調であったことから、振興基金からの助成金を大幅に見込み、総事業活動収入441,300,000円、総事業活動支出430,291,700円で事業活動収支差額は、積立金が含まれてマイナス16,491,700円とした。この結果、次期繰越収支差額は55,716,430円となった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4．平成21・22年度役員選任について

渡邊議長より、現執行部は渡邊会長を除き退室するように指示があり、理事が退室した。

評議員会に選任案があればお受けするが、なければ一昨年同様に会長及び専務理事を決定しその他役員の選任指名を両者に一任するということで如何か。その場合、会長渡邊佳英、専務理事川上憲太は継続で宜しいか。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認され、後日報告されることが約束された。

5．その他

田中守評議員（福岡）より、夏季オリンピック後にルール変更がなされると聞いているが今回はまだか。

江成常務理事より、現段階ではまだ改正に関する連絡はないと回答された。

報告事項

1．平成21年度登録について

兼子常務理事より登録についての大きな変更はないことが報告がなされた。

2．平成21年度国内・国際大会日程について

江成常務理事より報告がなされた。

兼子常務理事より、全国小学生大会、春の全国中学生大会の参加都道府県について説明があった。

3．平成21年度会議日程について

伊藤常務理事より報告がなされた。6月13日の会議は評議員会と理事会を合同で行うことが示された。

4．2016年オリンピック開催について

川上専務理事より報告がなされた。昨日、本日と新聞でも報じられているがIOCに東京都開催の申請が提出された。最終決定まで各国内大会を通じて少しでもムードを盛り上げていきたい。

市原副会長より、最新のデータでは日本国民の関心度は72%である。開催国に選ばれるために一番大切なことは設備よりも国民が望んでいるかどうかである。シカゴ、リオは現状で考えれば社会情勢として難しく、マドリッドはまたヨーロッパかとなるだろう。我々は将来の若人にオリンピックという贈り物を残すべきである。10月2日のIOC総会にて決定される。OCA総会は3月11日のビルオープンに合わせて行われる。中東の笛でいろいろあっても仲直りしてうまくやっていかなくてはならない。フェアプレーの精神を教え込んでいかなくてはならない。

アフリカ票が多いのでそれがどこへ動くか。マドリッドはサマランチの関係があり、あとは経済がどうかということもある。

添付の平成20年度第1回理事会（6/14開催）議事録と平成20年度第2回理事会（11/8開催）議事録は参照することで報告は省略された。

7．その他

1）JOCカップお礼

中村評議員（大阪）より、17年間JOCカップ開催では、JOCとともに日本協会にはお世話になり深くお礼申し上げる。来年度から愛知の開催となるので先日バトンタッチも済ませたことが報告された。

2）第6回車椅子大会

木野評議員（車椅子）より、和歌山で開催した第6回全国大会のお礼が述べられた。小、中、高とボランティアに参加してもらい、車椅子ハンドへの理解も深まったと思う。大会には韓国連盟の金ソウカさんにもお越し頂いた。小西会長がヨーロッパで開催されたセミナーに参加した。今後パラリンピック種目参加を目指す。国の障害スポーツ認定のため20チームを目標とする。

3）全日本総合

井川評議員（石川）より、皆様のご協力により土日とも立ち見がでるほどの盛況だったことにお礼が述べられた。今年は、全日本学生もあるので、また宜しくお願いしたい。

4）村木評議員（愛知）より、新聞報道で日本リーグの記事を拝見した。詳細を知らせて頂きたい。

市原副会長より、日本リーグの立場から申し上げると、リーグのチーム運営にばらつきが出てきたので、世界に選手を出すチームの1部リーグと地域に根差す2部リーグの構想があり、2部リーグには学生も入ってもらいたい。教職員、社会人、学生、実業団も含めた構想である。実業団連盟はチャレンジ・カップと二重登録参加費になっていて現状にそぐわない。ホンダについては、クラブは潰さないがリーグは費用が掛るので撤退するということである。

以上予定された議案について全て終了し、16時に閉会した。

上記の決議を明確にするため、議長渡邊佳英会長、評議員議事録署名人2名（内記英夫評議員、中村博幸評議員）、川上憲太専務理事がこれに署名、押印する。

スコアールーム

第32回全国高校選抜大会

開催期日：2009年3月25日（水）～30日（月）
会　　場：徳島市・徳島市立体育館

【男　子】

▼1回戦

北村山（山　形）32（15－12、17－15）27 紀北農芸（和歌山）

川口東（埼　玉）30（16－8、14－11）19 国　分（鹿児島）

興　南（沖　縄）30（14－13、16－13）26 富　岡（群　馬）

市　川（千　葉）27（14－11、13－9）20 向　陽（京　都）

西南学院（福　岡）36（20－11、16－13）24 境港総合技術（鳥　取）

藤代紫水（茨　城）40（19－14、21－15）29 那覇西（沖　縄）

明　星（東　京）33（14－8、19－18）26 大分雄城台（大　分）

横浜創学館（神奈川）30（13－14、17－10）24 東岡山工業（岡　山）

▼2回戦

千原台（熊　本）38（18－11、20－7）18 北村山（山　形）

法政二（神奈川）26（16－9、10－13）22 四日市工業（三　重）

岩国工業（山　口）31（16－17、15－12）29 桃山学院（大　阪）

香川中央（香　川）31（18－12、13－12）24 川口東（埼　玉）

興　南（沖　縄）41（17－11、24－17）28 湯　沢（秋　田）

札幌真栄（北海道）22（11－9、11－11）20 桜　台（愛　知）

氷　見（富　山）36（17－2、19－5）7 鳴　門（徳　島）

小林工·小林秀峰（宮　崎）27（11－14、16－12）26 市　川（千　葉）

駿台甲府（山　梨）37（18－7、19－15）22 西南学院（福　岡）

高岡向陵（富　山）35（18－12、17－18）30 徳島市立（徳　島）

不来方（岩　手）34（21－12、13－15）27 高砂南（兵　庫）

藤代紫水（茨　城）26（9－16、17－8）24 愛　知（愛　知）

明　星（東　京）43（23－11、20－13）24 帯広三条（北海道）

北　陸（福　井）38（16－9、22－12）21 洛　北（京　都）

岐阜商業（岐　阜）29（14－10、15－13）23 羽　後（秋　田）

横浜創学館（神奈川）33（12－12、15－15）31 瓊　浦（長　崎）

（1－2 延長 5－2）

▼3回戦

千原台（熊　本）30（13－10、17－15）25 法政二（神奈川）

香川中央（香　川）25（12－12、13－12）24 岩国工業（山　口）

興　南（沖　縄）31（16－13、15－15）28 札幌真栄（北海道）

氷　見（富　山）31（15－13、16－14）27 小林工·小林秀峰（宮　崎）

駿台甲府（山　梨）35（15－12、20－12）24 高岡向陵（富　山）

不来方（岩　手）38（20－10、18－15）25 藤代紫水（茨　城）

北　陸（福　井）43（21－12、22－11）23 明　星（東　京）

横浜創学館（神奈川）36（16－9、20－13）22 岐阜商業（岐　阜）

▼準々決勝

香川中央（香　川）28（15－13、13－12）25 千原台（熊　本）

興　南（沖　縄）32（18－14、14－13）27 氷　見（富　山）

不来方（岩　手）33（13－18、20－12）30 駿台甲府（山　梨）

北　陸（福　井）34（13－8、21－11）19 横浜創学館（神奈川）

▼準決勝

興　南（沖　縄）34（17－10、17－18）28 香川中央（香　川）

北　陸（福　井）45（20－14、25－14）28 不来方（岩　手）

▼決　勝

北　陸（福　井）29（15－16、14－10）26 興　南（沖　縄）

【女　子】

▼1回戦

香川中央(香　川) 26 (13－7、13－10) 17 四日市四郷(三　重)
大分鶴崎(大　分) 33 (16－13、17－11) 24 生　駒(奈　良)
神戸星城(兵　庫) 24 (9－10、15－7) 17 昭和学院(千　葉)
徳島城北(徳　島) 20 (8－10、12－5) 15 高岡向陵(富　山)
飛騨高山(岐　阜) 35 (19－13、16－10) 23 浦和実業学園(埼　玉)
夙川学院(兵　庫) 28 (15－11、13－16) 27 鹿児島南(鹿児島)
駿台甲府(山　梨) 32 (17－11、15－12) 23 石　川(福　島)
星　城(愛　知) 41 (22－12、19－8) 20 境　(鳥　取)

▼2回戦

四天王寺(大　阪) 30 (18－5、12－5) 10 香川中央(香　川)
小松市立(石　川) 28 (14－13、14－12) 25 栃木商業(栃　木)
水海道二(茨　城) 33 (15－11、18－11) 22 札幌月寒(北海道)
湯　沢(秋　田) 33 (17－12、16－13) 25 大分鶴崎(大　分)
華　陵(山　口) 26 (13－9、13－16) 25 神戸星城(兵　庫)
名古屋経大市邨(愛　知) 25 (11－12、14－6) 18 熊本城北(熊　本)
不来方(岩　手) 35 (17－6、18－10) 16 川　和(神奈川)
筑紫女学園(福　岡) 29 (11－8、18－6) 14 徳島城北(徳　島)
洛　北(京　都) 24 (13－8、11－9) 17 飛騨高山(岐　阜)
大曲農業(秋　田) 37 (23－5、14－10) 15 総社南(岡　山)
暁　(三　重) 45 (24－7、21－8) 15 釧路江南(北海道)
佼成学園女子(東　京) 28 (16－9、12－9) 18 夙川学院(兵　庫)
駿台甲府(山　梨) 30 (19－7、11－14) 21 氷　見(富　山)
高松商業(香　川) 31 (12－10、19－13) 23 那覇西(沖　縄)
横浜南陵(神奈川) 25 (12－10、13－13) 23 宣　真(大　阪)
天　草(熊　本) 26 (8－12、18－10) 22 星　城(愛　知)

▼3回戦

四天王寺(大　阪) 30 (14－6、16－10) 16 小松市立(石　川)
湯　沢(秋　田) 30 (15－9、15－12) 21 水海道二(茨　城)
名古屋経大市邨(愛　知) 34 (20－11、8－17) 32 華　陵(山　口)
(2－0　延長　4－4)
不来方(岩　手) 32 (20－9、12－8) 17 筑紫女学園(福　岡)
洛　北(京　都) 33 (16－11、17－6) 17 大曲農業(秋　田)
佼成学園女子(東　京) 28 (9－4、19－12) 16 暁　(三　重)
高松商業(香　川) 30 (15－15、15－13) 28 駿台甲府(山　梨)
天　草(熊　本) 22 (12－11、10－6) 17 横浜南陵(神奈川)

▼準々決勝

四天王寺(大　阪) 27 (12－6、15－6) 12 湯　沢(秋　田)
名古屋経大市邨(愛　知) 38 (17－10、21－14) 24 不来方(岩　手)
洛　北(京　都) 33 (15－9、18－9) 18 佼成学園女子(東　京)
高松商業(香　川) 34 (15－9、19－10) 19 天　草(熊　本)

▼準決勝

名古屋経大市邨(愛　知) 27 (13－13、14－7) 20 四天王寺(大　阪)
洛　北(京　都) 27 (14－11、13－9) 20 高松商業(香　川)

▼決　勝

名古屋経大市邨(愛　知) 19 (10－7、9－11) 18 洛　北(京　都)

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」3月入会・継続会員

【北海道】小島　収治　**【岩　手】**上町　祐隆　**【福　島】**今野　雅益　**【茨　城】**稲吉　繁、藤原　舞、大谷　秀之　田中　汀子、田中　将　**【群　馬】**伊崎　克巳　**【埼　玉】**豊田　武、豊田　久恵、高田　誠　**【千　葉】**外山　朝子　勝俣　裕二、吉田　修、石橋　茂、石橋　美保　**【東　京】**遠藤　優斗、渡部美乃里、渡邊　佳英、田村　公孝　滝本　光成、大浦　裕司、井上　保夫　**【神奈川】**齋藤　達也、鷲塚賢志郎、岩柳　昌宏、杉山　義祥、植村　繁　渡辺亜由美　**【山　梨】**千野恒夫　**【静　岡】**宮岸　健次　**【愛　知】**村上　智美、西村　亮治　**【三　重】**加藤　公　**【大　阪】**中川　大嗣、古庄　哲則、小森園多恵子　**【兵　庫】**高井　敬二、丸茂　登茂子、丸茂　康子　**【岡　山】**池田　洸樹　**【広　島】**塚本　近、前重　昌敬、石飛　慶久、児玉　史則、大下　正幸、和田　一雄　水戸　眞悟、先川　和幸、宍戸　邦夫、前川　正昭、赤川　三郎、金行　哲昭、今村　義照、山根　温子、山本　優　秋田　雅朝、青原　敏治、入本　和男、亀岡　等、藤井　昌之、田中　友紀　**【高　知】**有光　正憲、佐賀　厚幸

【5・6月の行事予定】

次号は6･7月合併号で7月1日に発行されます。

【会議】……………………………………………………………

5月16日（土）　常務理事会（東京）

6月13日（土）　第１回評議員会・第１回理事会（東京）

【大会】……………………………………………………………

5月６日（火・振替休日）

日韓定期戦2009（神奈川県・川崎市とどろきアリーナ）

※ お詫びと訂正

前号（４月号）17ページで、岡山県からの報告の大会名を「ビーチカップ　第15回小学生ハンドボール大会」とお伝えしましたが、正しくは「**ビーチカップ　第15回小学生ハンドボール大会**」でした。お詫びして訂正させて頂きます。

HANDBALL CONTENTS Apr.

（登録チームの購読料は登録料に含む）